

IF 6R-10

332-210



英國

祖國

一



To
My Teachers and Friends at Oxford.

オックスフォードの師友に獻す

「英國より祖國へ」の序

この小冊子は主として著者が過る三年の間オックスフォードの學窓にありて、見聞し、思考したる感想を集輯したものである。是等は時々「新人」、「基督教世界」、「太陽」、「日米」等の誌上に公表したのであつた。茲には歸朝後、「新女界」、「實業之日本」、「學生」及び「婦人の鑑」等諸雜誌のために談話したるものをも併せて収録した。今や歐米の旅行記、觀察録の類、毎月出版せられざることなく、世間はその過多なるに驚く程である。この小著も或は却つて累を江湖に及ぼさざるを保し難しと雖、遊子祖國を思ふの情禁する能はず、普通の旅客と方面を異にして、歐米の精神的文明を高調したれば、また多少の貢献を期するを得べきか。これ敢て本書を公にしたる所以である。

千九百十一年十二月

東京小石川の奥にて

著

者

「英國より祖國へ」目次

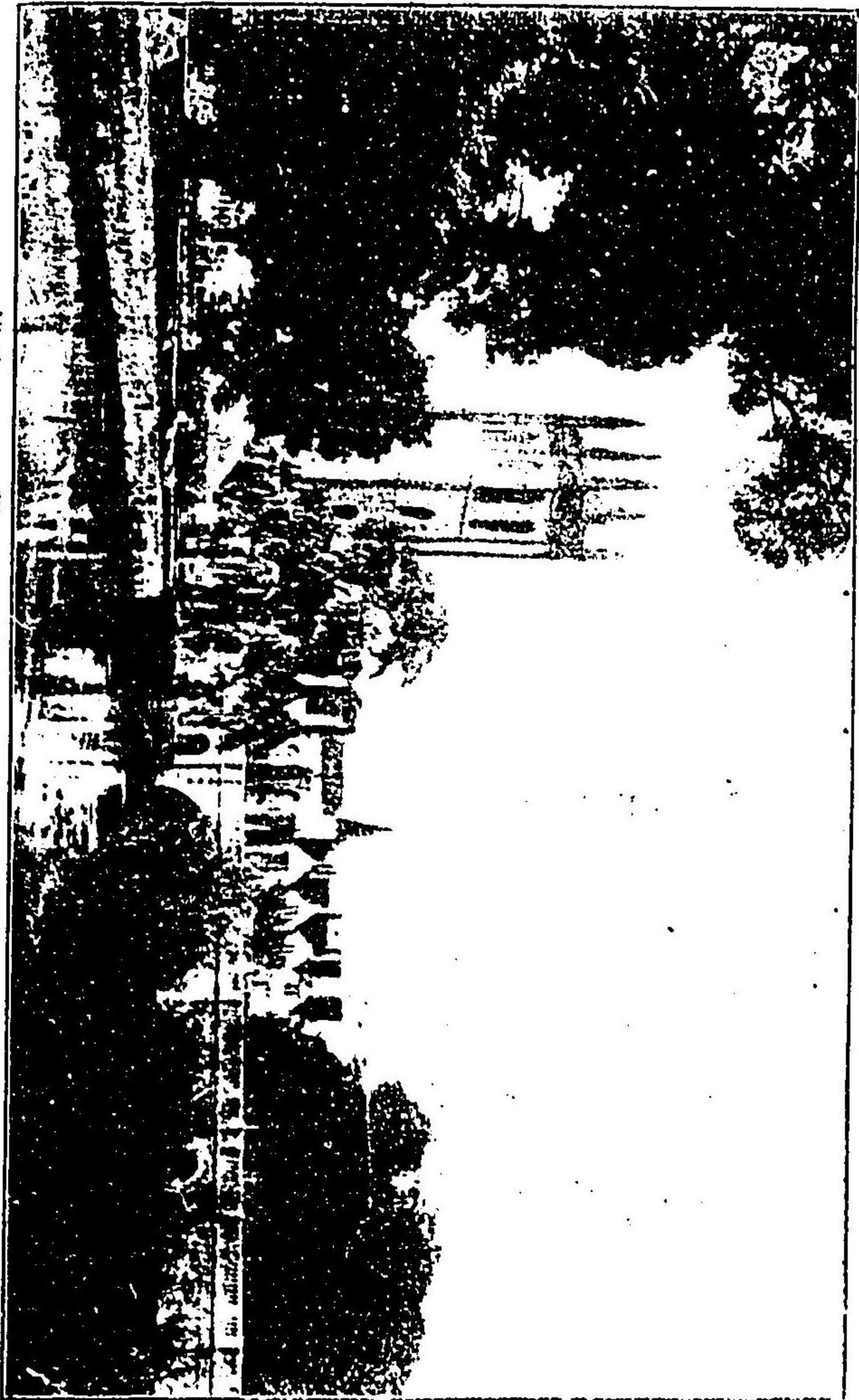
一、	オックスフォード對ケンブリッジ短艇競漕	一五
二、	カーペンター先生のことども	二五
三、	市會堂に於けるキャンベル氏	三六
四、	エヴァン、ロバーツと語る	三三
五、	ロアイシス河畔の春色	四六
六、	學生基督教青年會萬國大會の側面觀	四七
七、	復活祭	六七
八、	パーミングハム監督とカノン、ヘンソンとの對抗	六九
九、	市會堂總會のキャンベル牧師に對する信任	七三
十、	キャンベル牧師對吳服商會議	七六

十一、ブリス大將八十年祝會	七九
十二、菜食主義	八七
十三、教界近事の様々	九二
十四、女子教育問題	一〇〇
十五、防火と社會道德	一〇九
十六、收穫感謝祭	一一五
十七、研究的態度と宗派根性の脱却	一二五
十八、クリスマス前	一三八
十九、オックスフォード市公會堂に於ける カルゾン卿の伊藤公追悼演説	一三九
二十、オックスフォード大學に於ける日本語の講座	一四五
二十一、英國人の政治的訓練	一五一
二十二、英國民の常識とその素因	一五四

二十三、オックスフォードの三大神學者	一七一
二十四、英國職工社會の道德宗教的生活の觀察	一九五
二十五、日英博覽會の評判	二〇四
二十六、開會第一日の印象	二二三
二十七、哲學と詩歌との郷土	二五八
二十八、積極的英國婦人と消極的 日本婦人との對照	二六八
二十九、活動的英國婦人の代表者	二八三
三十、婦人開放の眞意義	二九〇
三十一、南歐觀光錄	三〇二
三十二、別れの旅路	三四二
三十三、地名に顯はれたる米國魂	三八一
三十四、米國文明の印象	三九一

挿畫 目次

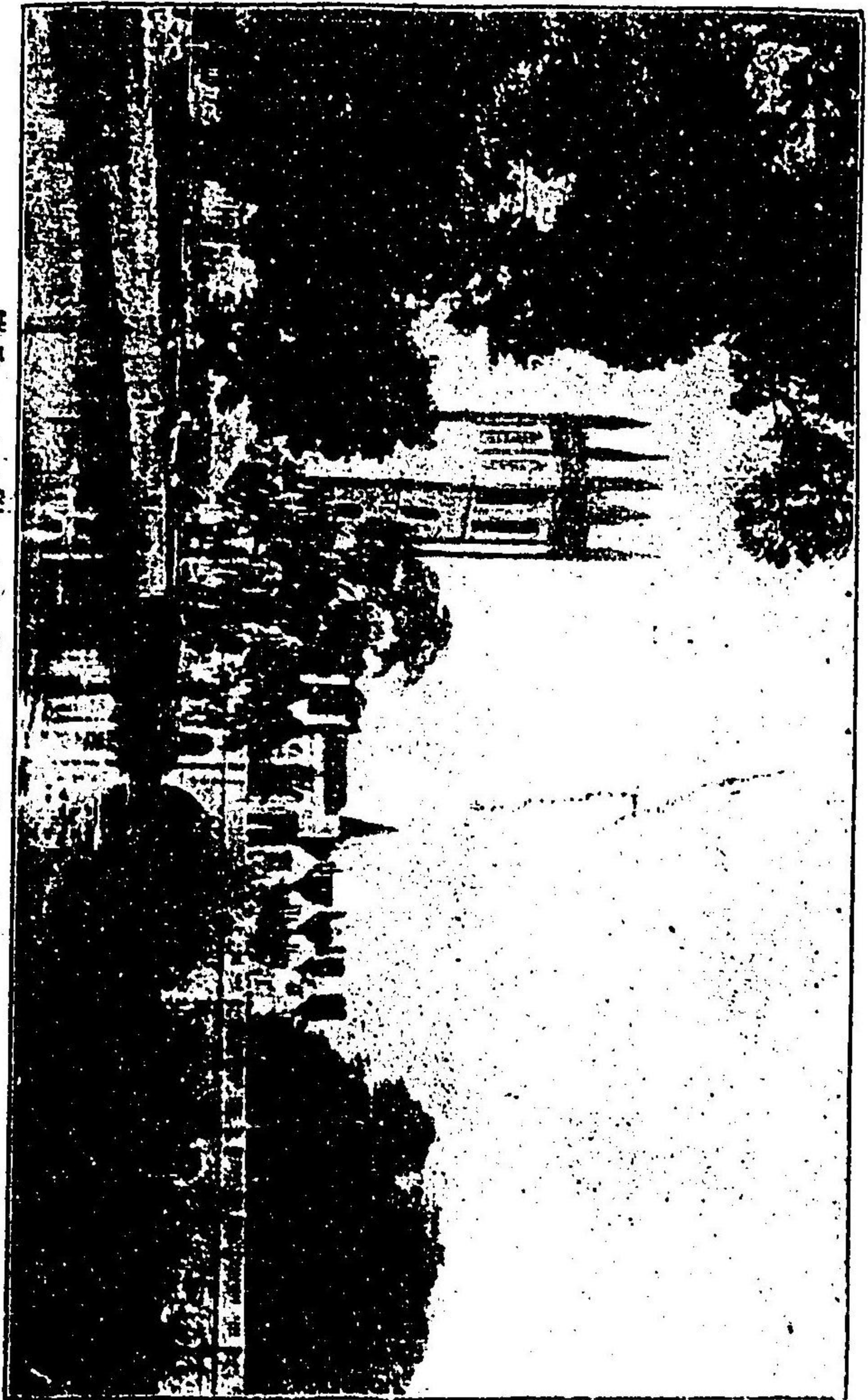
- 一、オックスフォード、モードリン學院の高塔
- 二、ジエ、エー、カーペンター博士
- 三、オックスフォード、クライスト、チャーチの校庭
- 四、獨乙、アイゼナハ市、マルチン、ルーテルの銅像
- 五、フランクフォルト、アン、マインのゲイテの家の後庭
- 六、書齋に於けるアントニオ、フォガツァアロー
- 七、ボロンナの二大塔



ボンの街景、ドーナツの塔

挿畫 目次

- 一、オックスフォード、モードリン學院の高塔
- 二、ジエ、エー、カーペンター博士
- 三、オックスフォード、クライスト、チャーチの校庭
- 四、獨乙、アイゼナハ市、マルチン、ルイテルの銅像
- 五、フランクフォルト、アン、マインのゲイテの家の後庭
- 六、書齋に於けるアントニオ、フオガツアロー
- 七、ボロンナの三大塔



ボロニャの三大塔

英國より祖國へ

内ヶ崎作三郎著

オックスフォード對ケンブリッジ短艇競漕

四月三日は日本の神武天皇祭で、英國のオックスフォード、ケンブリッジ兩大學の短艇競漕日であつた。英國人の運動に熱心なることは誰しも承知の事である。濕氣の多い風土に處して、英人は健康を保持する必要上、運動を愛好するに至つたのであらうが、それが遺傳的趣味となりては今は運動のために運動を愛するに至つたのである。而してこの運動好きの生活が今日の英人氣質の幾分を形造つたのであらう。國技となつてゐるフットボールは中學程

度の學校では毎日午後脅迫的に行はれてゐる。昨年十一月、ラグビー中學に行き、その有名なる講堂に導かれて、偉人トマス、アーノルド埋骨のほとりに瞑想すること少時にして、運動場を一周したる後、停車場を目指して歩いて居ると、校門より輕装せる數百の青年が、脛をあらはに出して、ゾロ／＼と列をなしてやつて来る。聞いてみると稍々離れたる、運動場に出かゝるところであつた。右手の公園の中では二三十人の若い婦人達が、勢ひよくホッケーのグラウンドに駆け廻はつて居つた。好奇心に惹かれて、僕も見物人の一人となつた。僕はウエリントン將軍がウオータローの勝利はエートンの運動場に始まつたといふ陳腐な言を今更の如くに思ひ出して、オックスフォードに歸つたのであつた。

オックスフォードの生活も半年餘りになつて、學生々活の一端に通じて來たが、運動熱の盛なるには驚くより外はない。午後二時より四時半迄は男女の

學生共に室内に残る者はない。各學院附屬の美はしい芝生の運動場にゆく。或はホッケーに、或はフットボールに、勝負事が盛に行はれてゐる。(春から夏にかけてはクリケットとテニスが盛になる) 雨が降つても、雪が降つても、運動場に人影が絶えない。折々は五十位の教授と見るべき人が唇から血を出したり、膝頭の皮を擽りむいたりして歸つてゆくのを度々見た。テームス河の上流が北より南にかけてオックスフォード平野を洗うてゐる。上流と下流との二個所に艇庫が幾つもある。上流へは三十分、下流へは五六分で達することが出来る。短艇には色々な型がある。掉で漕ぐパント、一本櫂のスカル、ヨット、二人乗り、四人乗り、八人乗りといふ様に各型の小艇がある。僕の學校では上流の艇庫へゆく。學生がゆくばかりでない。教授のジャックス氏のごときは五十近い人であるが、一週に二度位は必ず學生と一緒に漕ぐ。僕は度々舵手の役を力めた。春はじめのテームスはまことに愉快である。西

岸の平野には牛がノロノロしてゐる。馬がツクテンとしてゐる。渚には白い鷺鳥が泳ぐ。堤上の路を自転車走る。婦人の騎者がゆく。白烟を吐いて汽車が遙かの樹の間をかける。オックスフォードの赤煉瓦が見えがくれする。雲雀が天邊で囀る。三十分間の操艇をすまして寄宿舎にかへれば、心氣は爽然、夜の勉強はために幾分の効力を添えられるのである。オックスフォードは學生の都である。されば學生は大に幅がきく。たとへば運動服を着、毛脛をあらはに出して町中を歩くのも平氣である。此三四年來は帽子を被らぬことがはやる。帽子を被りつけると頭が禿げるといふ説があるからだ。好天氣の時は帽子を被らずに歩いてゐる學生は多い。これは大に難有い。僕も時々はこれを真似る。それから平日は糊付の白シャツを着てゐる學生はまづ一人もない。皆フランチルのシャツで、カラー丈をつける。但し日曜には糊付シャツを着る人もあるが、多數は糊付けの胸當丈をつけて間にあはしてゐる。學

生は日本の所謂山高をば日曜には被るが、平日は決して被らぬ。烏打帽で結構である。日本、殊に東京では學校の制服の下に糊付シャツを着る學生を多數見つけたことがあつたが、英國の學生が見たなら、その無意味な贅澤に驚くであらう。但し特別の晩餐などには、ことに婦人の來客がある時には、燕尾服を着ることがある。それも着ずに濟ませる場合がある。要するに日本の西洋風なるものは、最初に西洋に來て上流社會の表向きのみを見習つたハイカラ連中がはじめたのであらう。それを貧乏なる學生がハイカラ振つて真似るなんて、實に下らぬ話である。そんな餘裕があるならば、滋養分を胃袋に注ぎ込むのは得策である。要するにオックスフォードは四周に丘陵を有する低濕の地にして健康の土地ではないが、テムス河と廣々したる平野とあるので、運動には多大の便利を興へてゐる。その他自転車、自動車、自動双輪車等の流行は著しい。殊に婦人の自転車乗りと騎馬者の多いことは歐大陸より來た者

の目を廻はす所である。學生のみでない、商人の間にも運動熱が盛で、木曜日の午後とか土曜日の午後とかは店を早仕舞にして郊外の運動場に出かける。又各都市にはフットボールの選手があつて他の都市と競争する。英蘭の選手あり、蘇國の選手あり、ウエールズの選手がある。いづれの新聞も少くとも一ページ全體は運動記事に費さぬといふ事はない。運動が盛になり過ぎたと不平をいふてゐる英人がある位だ。日本ではドン／＼運動を盛にする必要がある。日本の青年が意志が弱いといふ攻撃があるが、それは體力が弱いからであらう。英國の宗教、文學、美術、實業を理解するには、英人生活のこの方面を看過してはならぬ。日本では傳來の柔術、擊劍、長刀等はますます盛にすべしである。但し彌次馬のみで満足せずに、銘々が何か一つの遊戯を日課としてやる様になりたいものである。話しが思はずそれだが、最初の兩大學短艇競漕に返らう。

世界に名高い英國兩大學の競漕は千八百廿九年に始つた。しかし疫病とか、その他の事情で、行はなかつた年もあつたので、今春のが第六十六回である。昨年までの勝負によると、オックスフォードの勝が卅四回、ケンブリッジの勝が三十回である、しかし最近十年間の競漕に於て、ケンブリッジは八回の勝を占めた。何故にかく勝星が一方に偏するかといへば、或時期に揃うた選手が一方に集まると、その餘勢が六七年間續くのである。それで過去の勝負表をみると、千八百三十六年より四十九年迄の八回の競漕中、ケンブリッジは七回の勝を占めてゐる。千八百六十一年より九年まではオックスフォードが勝ち續けた。千八百七十年より八十九年迄は、ケンブリッジの十二回に對してオックスフォードは七回しか勝つておらぬ。千八百九十年より九十八年まではオックスフォードは幸運の順潮に乗じた時期であつた。而してその後はケンブリッジ得意の時期となつて近年に至つた。オックスフォードは千九百一年と五年とに勝

ちをえた計りである。そこで今年の勝は最初からケンブリッジのものご定まつて居つた。僕はチームス下流の堤上を散歩しつゝ、この名譽ある八人組（この選手をば The eight といふ）の練習を目撃して、全敗を期しながら健氣なる稽古振りを示すを見て、私かに同情に堪へなかつたのである。二三週前より大學の選手は愈々ロンドン上流のチームス河にあらはれた。彼等は秘密に練習することを許されない。彼等の一舉手一投足は新聞記者の筆を通じて英國中に傳へらるゝのである、競漕前數日はいづれの新聞も一二欄は彼等の稽古振りを批評してゐる。ケンブリッジの整調スツアルトは英國隨一と稱せらるゝ剛の者で、二度オックスフォードを破り、一度米のハーワートを破りたる名譽の勝利者である。この組がチームスの流に浮びはじめたる時は、殆んど申分なき迄に練習が積んであつたといはれる。しかるにオックスフォードにては新米者のボルンヌといふ二十歳の一青年を抜擢して整調の重任を負はせ、

昨年整調たりしグラットストーン（同名の大政治家の孫である）は前撓手に廻つた。稽古も十分でなかつた。しかし舊時代の選手の名垂るゝ連中が更代して訓練の任にあつた。それで本競漕の數日前の稽古に於ては退潮に乗じた爲でもあつたらうが、四哩四分の一の距離を十八分何十秒の短時間に漕ぎ終へたので、中々の評判となつた。それでも大勢はケンブリッジの肩を持つた。僕等は風來者で、何方にも依怙最負がない。しかしオックスフォードに居れば此方を勝せたいのは人情だ。

愈々四月三日の土曜が來た。朝からの好天氣。見物人が定めて多いだらうと想像しつゝも、わざ／＼ロンドン三界まで出かける丈の熱心もなく、寄宿舎の一室で午後一時頃まで讀書をした。一時に食堂に出かけた。競漕は午後〇時二十五分にはじまるのだから、もう勝負がついた頃だ。何方が勝つたにしても、今頃チームス堤上十五萬の見物人がどよめいて居る頃と思つてゐた。

そのうちに休暇中僕と共に寄宿舎の留守役となつてゐる英人と印度人とが来る。英人は常大學出身者丈勝負を氣にしてゐる。所へ小使がやつて来て、今電報があつて、二三艇身とかの差で此方が勝ちましたといふ。英人はハローと叫んだ。僕等も覺えずこれに和した。食堂のガラス窓から見える向側の三棟の棟は整調ボルンヌの家である。僕等はその家にまで響けよかしと祝聲を擧げたのであつた。食後三人打連れて大學々生倶部樂にゆく。掲示場には大きな地圖があつて半哩位毎の兩艇の位置が示してある。これは電報で通じて來たのだ。公電が二つ三つある。最初のは單に勝つたと記してある。第二信には三艇身勝つた、時間は十九分五十秒と記してある。老教授述や英國教會の牧師らしき人々が澤山見えてゐたが、いづれも落ちついて黙つてゐる。英人の氣質はこんな時にもあらはれる。學生の少いのは休暇中であるからだ。それから市の中央部の四辻にゆくと、今朝の新聞に勝負の結果を刷り込んだを

賣子が賣つてゐる。寫真屋の店頭には大版の八人組の寫真が飾つてゐる。道ゆく人も一寸は立ち留まつて彼等の勝利を祝する。オックスフォードは全敗を期して見事なる勝利をえたので、凡ての市民の顔のいろ／＼に、かく思ふてみる爲かも知れぬが、喜びの色をかくせなかつた。夜になるとロンドンの夕刊新聞が詳報を傳へて來る。四日の日曜には各種の日曜新聞が挿畫の記事で賑つてゐる。五日の月曜となれば、一枚三ペンスのタイムズを始めとして半ペンスの繪入新聞に至るまで、二三欄をこの記事にさしげないものはない。記事はいづれも専門家の筆になりて精細を極めてゐる。堤上の佳人幾萬人揃ひも揃つた薄翠り色の菫の花を胸につけたといふことや、薄翠はケンブリッヂの色深翠はオックスフォードの色、バン屋や御者等が帽子や鞭や馬具にまで思ひ／＼に最負の色をつけたことや、兩艇スタートの具合ひや、最初よりの一分毎の擡の數や、兩舵手の懸引や、兩整調の戦略や、兩艇の乗組員中の誰々

が最もよく漕いだとか、出發點のブットネーより三哩程迄は兩艇雁行して寸分の優劣がなかつたことや、首相アスキス夫妻が自動車を驅りて堤上の見物衆の中に混じたことや、十數萬の大群衆が沈着に控へて大國民の態度を耻かしめなかつたことや、決勝點一哩近くからボルンヌが最後の奮闘を試みて、メキ／＼と敵艇を抜きはじむるや、堤上に落ち着き拂つてゐたオックスフォード出身の青年僧侶が黒衣の身分を忘れて「オックスフォードが勝つぞ」と連呼して愛嬌であつたことや、ケンブリッジの整調スツアートが力戦したれども、疲れ切つたる味方は之に應ずることが出来なかつたとか、巨細に亘りて書いてある。之を讀むと實際見物したと同様である。書入新聞は整調のボルンヌが群衆をわけて船にゆく所や、出立點の光景や、堤上の混雜や、決勝點に於けるケンブリッジの疲勞の状態等興味ある書題を讀者に示してゐる。オックスフォード勝利の原因は科學的に説明せられてゐる。過去六十六回の

選手の平均體量は大抵十五貫三百二十目位であつたが、此度のオックスフォードのは十六貫四百二十目程である。これは空前のレコードである。この重量を以て三艇身半の勝利を占めたので、一つの新問題が運動界に現はれた。オックスフォードの乗組員の重量の著しい増加は近年各種の中學程度の寄宿舎に於て食物の改善に基くといふ説もある。選手中六呎以上身長を有するはオックスフォードに六人、ケンブリッジに五人ある。最高者が六呎三吋五分である。(序にいふが日本人の身長及び體格を改善するには食物の改善が必要であると論じた英人がある。これは大問題である。ことに教育者の研究を望む。)今週中に刊行せらるゝ各種の六ペンスの週刊書入雜誌には猶ほ詳しい書報が試みらるゝであらう

英人の運動狂は前記のごとくであるが、兩大學の競漕の際の人氣は非常なものである。これは兩大學の出身者とか、その家族とか、騒ぐわけでない。

單に公明正大なる勝負事を愛するといふので、自分で思ひ／＼に最負をつくるのである。勿論多少の賭博めいた事も伴ふであらうが、ほんの愛嬌で五六シルリング位でやるのが通常なそうだが、ダルビーの競馬では大げさな賭博が行はるゝといふのである。飲酒、賭博及び運動はゼルマン民族が中歐の森林高原に移動した頃よりの遺傳的習慣の一分かもしれない。

とにかく、この運動熱は因循姑息の態度を一掃し進撃的態度をとらしめて、英國民の植民政策を陰に助けてゐるばかりでなく、宗教をいへば英國々教會は世界を統一せんとし、非國々教徒またこれに譲らざる抱負を有してゐる。これは幾分かは羅馬帝國と羅馬教會の模範のあるためかもしれないが、國民の氣風またその一因子たることは疑ふべくもあらず。運動家ならざる僕がこの通信を試むるは日本の國民教育について英人の氣風が暗示を與ふる事が少ないことを悟つたからである。僕は讀者が言外の意味を看取せられんことを

望むの情に堪へない。(四十二年四月八日)

カーペンター先生の事ども

前信には運動のことを書いたから、此度は人物のことを書かう。先づ僕が日常親炙して、教を乞うてゐるマンチエスター學院長、ゼ、エ、カーペンター博士から始めよう。マンチエスター學院の歴史は他日改めて書かうと思ふ。カーペンター博士は代々學者の家柄に生れたのである。即ちゼームス、マーチノに感化を及ぼしたるウィリアム、カーペンターの第二子にして、そのマーチノがマンチエスター學院がオックスフォードに引き廻して來ぬ以前に、その長たりし時に同博士は當學院を卒業せられたのである。今年六十五歳で、三十五年間一日のごとく、本學院に教鞭を執つて居られる。數年前ゼームス、ドラモンド博士に繼ぎて、學院長に選ばれた。カーペンター博士は非常な勉

強家で、種々の著書がある。「神學者及び教師としてのマーチノー」は最近出色の傳記文學の一に數へられてゐる。新約聖書及び比較宗教の學者としては、當代にて指折りの中の人である。「最初の三福音書の起原及び關係」、「第十九世紀に於ける聖書」等は以て博士の該博なる智識と公平なる研究的態度をうかがうとが出来る。「イエスの時代に於けるパレスティンの生活」は小冊子であるが、此種の著述中の寶玉明珠である。それから舊約書及び比較宗教學に關する著書がある。比較宗教は近頃博士の全力を傾注されてある事業であるが、研究の範圍が東西古今に亘るが故に未だ之を纏めて發表せらるゝまでには至らぬ。しかし博士の比較宗教の講演はオックスフォードに於ける呼物の一つである。日本に餘り多く知られてないといふのは博士は英國に於ける小數黨の代表者であるから、質高の多い週刊などの評判にのぼらぬからである。そこで「大英週報」などいふ、一方に偏せる雜誌を通じて、英國の思想界をの

ぞいてゐる日本の基督教界の一部には全く知られてないかも知れない。しかし英國に於て同博士は次第に重きをなしつつある。オックスフォード大學は先年文學博士を贈つたが、昨年グラスゴー大學は神學博士を、又獨逸のエアナ大學は昨年舉行したる三百五十年祭紀念に同じ學位を贈つた。しかし今は先生の詳傳をもめすべき場合でない。先生の蘊蓄は寧ろ將來に於て社會に發表せらるゝであらう。今にして傳記をかくは稍々早過ぎるであらう。よつて僕が先生より受けた印象の一部を述べやう。

同博士の性格のうち最も目立つものは親切にして同情の深い教育家たることである。昨秋新學年の初めには學生を一人一人自分の室に呼んで、志望と目的とを聞いて、出席すべき時間を相談したり、又自ら學生控室に來りて、學生一同に懇談的訓示をされたりした。その要旨はよく記憶してゐぬが、現今の複雑なる神學問題の攻修は多方面の研究を要する事、社會學の重大なる事、睡眠時

間を節約して迄も勉強する元氣が肝要なこと、近世大詩人の傑作を愛讀して高遠の思想を養ふべきと、折々はコブデン、グラットストーンのごとき大政治家の傳記を讀んで鈍れる精神を鞭撻すべきこと、智識的過重の傾向を制するために瞑想を勵むべきこと、デヨルチ、ドーンソン及びブンセンの祈禱集、ハミルトン、トムの説教集等の熟讀を促された。同じ日の午後新入生丈を圖書館に集めて参考書を指定し、當時リウマチスの氣味で、腰部に苦痛があられたに拘らず、圖書館の各部に學生を案内して、部類別けの説明の勞を取られ、日本流の教育を受けた自分はどうしてこんなに親切なのかと驚かれる計りであつた。

第一學期の各日曜日の午後には、ウオヅウオスのフレルードの輪讀會が博士の邸宅に催された。博士夫人が主人役となつて茶の御馳走の後、博士夫妻と數名の學生とが應接間にあつまりて、順にその名篇を輪讀するのであつた。折々博士が註釋を添えられる。たまには落ち合はした來客の婦人達なども加は

つて、議論に花が咲く時もある。寒い風が烟突を吹き鳴らす寒い夕も、外面には雪が降つて、街道が一面に凍りつめたたそがれも、清楚なる一室の中、暖い爐邊を圍みて、詩人の崇高なる向上の理想を辿つてゐる時は、陰氣な冬空をも忘れて身は永遠の理想郷にある様な感じがした。

博士は學生と親炙せらるゝために他の方法を設けられてゐる。それは學期中毎週一二度極々質素なる二人乗の無蓋馬車を賃し、博士自ら御者となり、學生をかはるゝ乗せて、二時間程、郊外に出遊することである。この間に處世談、文學談、自然美談、宗教談といふ様に話題がそれからそれへと飛んでゆく。四圍の景色もそれにつれて移つてゆく。オックスフォードの近郊は歴史的聯想に富んでゐる。博士は折々車上歴史譚を試むる。學生はいづれも喜んで自分の番が來るのを待つてゐるといふ譯である。

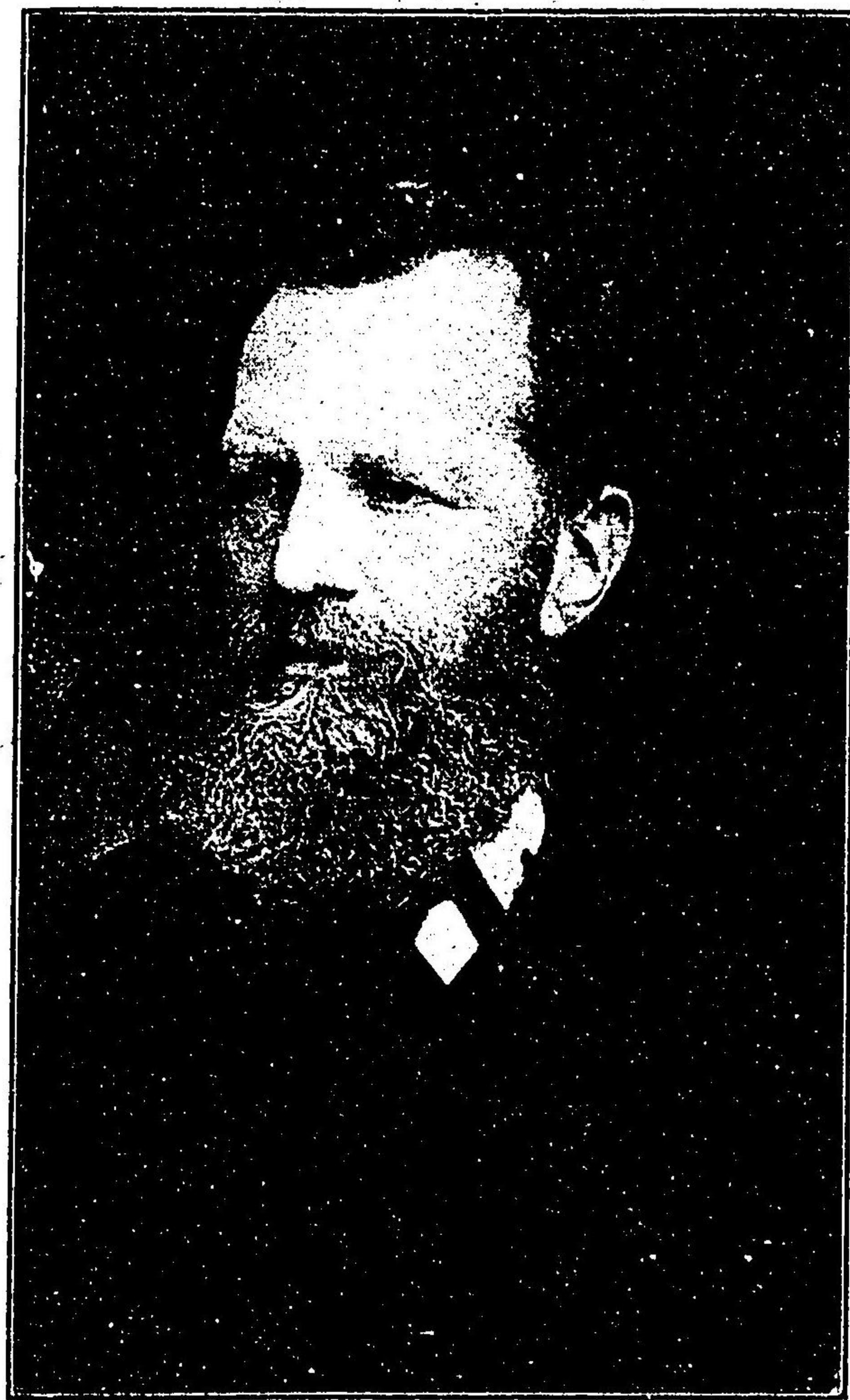
毎學期三回位開かるゝ校内討論會にて、博士は何時も議長席につき、常に公

平無私なる判断と意見とを發表せらるゝ。この會は夕食後に開かるゝ故、閉會は十時や十一頃にもなる。風雪の夜も博士が暗につゝまれて一人でトボくと二哩もある私邸に歸りゆかるゝを見る時は、若い者が手近かの寄宿舎に駆けつけるは勿體ない事の様思はれた事は一度ならずあつた。博士には子女がない。これで一層深く學生を愛せらるゝに至られたかも知れぬ。僕等が一寸旅行に出かくる時などでも、英國の冬は寒いから、厚い外套を着てゆけの何のと、丸で自分の子に對する如き深い注意をせらるゝのが常である。又學生中の誰かゝ風邪にでも罹りて床ついで居ると、博士が突然見舞にやつて來るのが御定りの様なものだ。外の教授達も無論來る。數年前當校に一寸在學した好本督君の如きは、病氣のため下宿住まいをしてゐる所へ、度々老先生達の見舞を受けて恐れ入つたと話されて居る。同君は高等商業學校の出身者なるに拘らず、望みを名利の社界に斷ち、日本の盲人のために一生を捧げられんとし



士博 — タンパーカ、— エ、エジ

平無私なる判断と意見とを發表せらるゝ。この會は夕食後に開かるゝ故、閉會は十時や十一頃にもなる。風雪の夜も博士が暗につゝまれて一人でトボくと三哩もある私邸に歸りゆかるゝを見る時は、若い者が手近かの寄宿舎に駐けのけるは勿體ない事の様に思はれた事は一度ならずあつた。博士には子女がない。それで一層深く學生を愛せらるゝに至られたかも知れぬ。僕等が一寸旅行に出かくる時などでも、英國の冬は寒いから、厚い外套を著てゆけの何のと、丸で自分の子に對する如き深い注意をせらるゝのが常である。又學生中の誰か、風邪にでも罹りて床ついで居ると、博士が突然見舞にやつて來るのが御定りの様なものだ。外の教授達も無論來る。數年前當校に一寸在學した好本督君の如きは、病氣のため下宿住まいをしてゐる所へ、度々老先生達の見舞を受けて恐れ入つたと話されて居る。同君は高等商業學校の出身者なるに拘らず、望みを名利の社界に斷ち、日本の盲人のために一生を捧げられんとし



士博 - タンペーカ、一五、五〇

てゐるは、自分が極度の近眼のために盲人に同情を寄するに至られたのであるが、生涯の事業を選択せられた動機はカーペンター博士の黙々の感化であるというてゐる。

去年のクリスマスに寄宿舎に残つたのは印度の學生と僕との二人のみであつた。博士は淋しいだらうとて、十二月の二十三日の夕食に我等を招ぎ、食後は卓を圍みて、種々の遊戯の相手となられて貴重なる時間を我等のために割愛されたこともあつた。

かゝる次第であれば學生をはじめ、學校と寄宿舎の小使、下女、園丁等に至るまで、博士を尊敬愛慕することは一通りでない。僕のごときは六七年も教育家の職を辱めたるものだが、學生を愛するの念の甚だ足らざりしを思ひ出さずには居られない。

カーペンター博士の第二の特質は飽まで公平寛大なることである。自分の

主張は決して曲げないが、他人の思想には十分に尊敬の意を表せられる。博士は同情と尊敬と以て他宗派を批判せらるゝ。東洋の諸宗教には特に興味をもたれてゐる。昨秋は比較宗教の一部として神道について數回に亘れる大講演をやられた。博士の性格は基督教の感化によるは勿論なれども、東洋思想の研究の結果として、他の英人の性格に見るべからざる或物がその靈魂の奥底に潜んでゐる様である。昨年當地に開かれたる萬國宗教歴史大會は博士の奔走に負ふ所多く、來る九月は英國々教會、會衆派、ユニテリアン等各派合同の大仕掛の夏期神學校がオックスフォードに開かるゝことになつてゐるが、博士はその準備委員である。國教、非國教、自由神學派が提携して夏期神學校を開設するは英國に於ては空前の出來事である。これが保守的なオックスフォードに成立するといふは時運の進歩も驚くべきではないか。而してこの大勢を誘導するに最も盡力したるはカーペンター博士を第一となす。理想を實

現せねばやまざる博士は實によく英國の學者を代表するものである。

博士のごとき教育方法は多數の學生を有する學校には實行しにくい事であらうが、日本の教育は十中七八分までは餘りに不親切な方法である。これは官私の區別はない。學校騒動は頗る頻繁となつた様に思ふ。日本では舊代の師徳が破壊されて、新代のそれが建設されてない。まことに心細いことである。歐米の教育家のうちには實に模範とすべき人物が多い。日本はまだ一臆を折つて教を乞はねばならぬ。教育學の翻譯や、燒直し位で教育の實はあがるものでない。如何にして眞正なる教育者を養成すべきかは文部當局者、否日本國民の焦眉の急務である。もし文部當局者がこの問題を解決することが出来ぬ時は、いくら制度を改善した所が、國民に對してこの大責任を果したといふ事は出来ぬ。勿論英國に於ても博士のごとき人格は餘り澤山はないが、トマス、アノールド、ジョウエット、グリーン、エドワード、ケーアードとい

ふ様に教育者の羨しい傳統が繼續してゐる。殊に後の三學者は近代のオック
スフォードの青年に多大の感化を及ぼしてゐる。就中、教育家としてグリー
ンの如きは倫理學者としてそれよりも一層偉大であつたらしい。僕は日本の
教育家が教育學の研究にあはせて最近歐米の教育家の傳記に就いて學ぶ所あ
らんとを望まざるをえない。又英國ではユニテリアンは團體としては振つて
ゐぬが、個人として教養ある敬虔なる人物を養成してゐる事は見逃がすべか
らざる長所である。カーペンター博士の如きはその一例である。日本の基督
教徒のうちではユニテリアンといふと一種の外道の様な感じを抱く狭量の人
があるが、それは歐米の一短所を頂戴してゐるのである。英國でも頑固な、
餘り教育なき社會ではユニテリアンを惡魔の様に思つてゐるが、國民全體と
して中々さばけてゐる。ロビンソン、クルーソー漂流記で名高いデーギット、
デフォー、小説家チャールズ、ヂッケンス、論文家チャールズ、ラム、社會

改良家ジョン、ホーワード等皆此嫌はれたる宗派に屬する人々であるが、社會
は彼等の名譽を歌うてゐるではないか。今は健康衰弱して閑散の地にあるジ
ョセフ、チャンパーレン氏もパーミングハムの一ユニテリアン教會の會員で
あるが、英國民を率ゐて、帝國主義を實行するに差支ひがなかつた。米國の
新大統領タフト氏も同主義の人である。ハーヴァート大學總長エリオット博士
も同様であるが、現職を去る曉は駐英國大使に就任されたしと、英米兩國民
より懇望せられてゐるのではないか。(但しエリオット總長は之を固辭した。)
アブラハム、リンコルンは單に一個の基督教徒にして、特別の宗派を標榜せな
つた。これで二回も大統領に選ばれることが出来た。要するにいづれの國民
も、全體としては、小數の僧侶階級よりは見識に富んでゐる。だがユニテリ
アンといふ名はあまりに宗派的であるから、自由公同教會フリース・チヤーチと稱したいといふ
希望の人々もある。兎にかく人格が狭い宗派を超越することがある例として

かくは書き添える。(四月八日記)

市會堂に於けるキャンベル氏

昨年九月ロンドンに着くや、第一に駈け着けたのは市會堂(City Temple)であつた。慥か十月第一木曜の午前十一時頃であらう。西部の下宿屋を飛び出し、地下電車にてホルボルンの近所にて下車したが、不案内のため、少々遠まほりをなし、近頃珍しいロンドンの残暑を啣ちながら、やつと目指す所の市會堂に着いたのは、一時に程近い頃であつた。教會らしくもない寧ろ古風な會社とでもいひたい建物の二階に登りて、靜かに戸を開くと、二千位の聽衆が堂に溢れてゐる。聽衆はさて置いて、説教者の風采如何にと注目すれば、蘇格蘭の血を承けて居るとが直ちに解つた。赤らみを席びた頬のこけた顔である。眼が窪んで一種の光を放つてゐる。頭髮は灰白色で、初見參者の余には

若いのやら年寄つてゐるのやら、合點が行かなかつた。聲の量に至つて小さいが、非常に鍛練したものがある。一語一語の發音は實に明晰である。然し、説教の終りに近い頃から聞き出したのと、二階の片隅に居つたので、十分に聞こえぬと、また耳の稽古が足らぬので論旨が解らないうちに終つて了つた。せかず、急がず悠然として、會堂をいづる聽衆に混じて表に出ると車馬喧囂の聲に混じて、キャンベルスサーモン(キャンベルの説教)と賣子が呼んで、同氏の説教が掲載されてある週刊雜誌クリスチャン、コンモンウェルスを賣つてゐる。雑誌の外同氏の寫真や繪はかきをも賣つてゐる。もしこれが日本にあつたとしたならば、變に思はれるだらうが、物質文明の盛なる英國では精神界の勢力を張るにはこの種の手段が必要であらう。而して自由で持ち切る英國にては賣子を止める譯にもゆかない。序にいふが西洋では人物のゑはがきが流行である。故人ばかりでない、現代人物の偉大なるものは誰一人ゑ

はがき屋の店頭に飾られないものはない。日本でも名僧學者のゑはがきを作つたならば善いと思ふ。話しが横道にそれた。さて僕はキャンベル氏は評判程の説教者ではないと考へた。しかし次の日曜の朝再び市民殿に行つて下の片隅から耳をすまして聞くと、よくもこの小さい聲を巧みに操縦するものかと感じて來た。日曜朝の音楽は仰山なものである。これは改めて記そう。説教の後に晚餐式があつて、僕もこれに列なつた。式後數十名の老幼が教壇に押しかけてキャンベル氏と握手をした。同氏は一人／＼に手短かに家族のなどを尋ねたらしい。最後に僕も出かけて自分を紹介した。英國では紹介状がなければどうのこうのといふ事を聞いたが、宗教界などは頗る自由なものだ。こちらの善意を通ずる丈の眞面目な態度があつて相應に會話が出来ればよい。キャンベル氏は握手後、近くオックスフォードに赴き、君の行くマンチエスター、カレッジで説教をするから、重ねて會うというて別れた。こんな事

で長引いて表門が閉ぢられた。これは巡査がやるらしい。日曜の朝夕巡査二三名は必ず立番をしてゐる。混雑を制するためである。この朝僕も十分餘りも行列の中に這入つて表に並んでゐた。教會門前に聽衆が行列を作るとは面白。

第三回目に僕は同氏と豫定通りマンチエスター、カレッジで會つた。説教前に、食堂にて學生一同校長カーペーター博士と同氏と會食した。否學生の食堂に同氏を招待したので、特別の御馳走をしたのではない。丁度僕の左側に同氏の席があつた。カーペーター博士は僕が市會堂にいつたそうだが、覚えてゐますかなど、キャンベル氏に聞く。同氏は覚えてゐるなどいふ。時間が切迫して長話する折はなかつた。この夜のキヤルベル氏は非常な出來榮であつた。聽衆者が廣くもない禮拜堂に溢れた。説教の眼目は靈的社會主義の福音であつた。初めは小さい、思慮ある聲で、用意周到過ぎる感あらしむる態

度であるが、高潮に達するなれば、用語にも無頓着になる細心なる説教者は殆んど全く我を忘れて来る。しかも一種の法悦に堪えざるがごとき幽かなる笑顔が消えない。學生の多數はこれ迄こんな大説教を聞いたことはないといふ判断に一致した。僕もキャンベル氏の偉大なることは大に理解した氣がした。その後常に僕は同氏の説教を愛讀してゐたので、同氏の思想は次第に理解して來た。新神學といへば何だか安つばい。新神學を攻撃する大多數は新神學を知らない連中に多い。僕と一緒に西比利亞を旅行した一英人は會衆派に屬する平信徒運動者の一人にして、妻君と娘さんとを連れて支那より歸る所であつた。ゆくりなくこの家族と心安くなつて折々宗教談を試みた。同氏曰く、某博士はキャンベル氏の新神學には何も新しいものがないというた。キャンベル氏の人格は尊敬すべし、新神學は最悪のものである云々。世間の攻撃者は大抵この種の人々だ。キャンベル氏は非常に靈的人である。且つ彼

の信仰の立場は合理的といふよりも神秘的の點に存する。彼は人間の最大の幸福を活ける神との交りにありとし、基督はこの道を示したるが故に救濟主なりと斷じてゐる。而して人類は皆神の靈を心に宿すが故に一般人類の幸福を企圖しなければならぬ。こゝに於て彼の基督教的社會主義が起つてくる。もしキャンベル氏の主張より此社會主義的向上心を取り去ればユニテリアンと殆んど違ひない。キャンベル氏の運動は Progressive Thought and Social Service League「進歩的思想と社會奉仕同盟」と稱してゐる。もしこれが成功すると二十世紀に於ける新メソヂスト運動のごときものになる。日本の新神學は、或は單に神學論に終りて社會の活問題に觸れずに終らば、餘り感服すべきものであるまい。今の世は所謂神學者の多さに困つてゐる。キャンベル一派は直覺を尊ぶ。こゝは大に東洋思想の感化を受けたらしい。神の有無の議論は西洋人には必要で、東洋人は直覺して一種の悟りに達し得るのであらう。

基督は有神論をやらなかつた。これ彼は東洋に生れたためである。東洋人はこの大切な長所を失うてはならぬ。西洋人には幽玄な瞑想の味ひがわからぬ。神を心のうちにみとむるよりは樂器にあはせて讚美歌を唱ひなければ承知せぬのである。西洋より科學を學ぶは可なり。しかも神が特別に東洋人に幸したる瞑想的、神秘的、内觀的の長所は何處までも發達させなければならぬ。西洋人が七轉八倒した所が、その長所を專有することが出來まい。科學と哲學は西洋を師とせよ。基督の東洋的意識は東洋人と神會默契する所がある。ゆめ／＼西洋人の糟粕を嘗めてこの長所を失うてはならぬ。勿論西洋にも例外はある。しかし大多數を標準として考ふればかゝ判斷して差支ない。キャンベル氏一派はこの點に注意しはじめた。東洋の倫理宗教の長所は何處までも攝取せんとする傾向がある。これは保守的な、獨尊的な、英國の思想界、否神學界には稀有なことである。この點よりしてもキャンベル氏等の功績は中

々なものである。又キャンベル氏は目下、南船北馬、大英國を遊説してまはつてゐる。至る所大した勢力である。同氏はこの運動は宗派的動運でないから、所屬教會を脱するなど警戒してゐるが、保守的教會にてはこの派の説を信ずる青年信徒を除名した所も少くない。世の中には取越苦勞をする人が多い。キャンベル氏はクリスチャンコンモンウェルスに質問欄を開いて一切の質疑に答へてゐるが中々巧妙である。

キャンベル氏一派の勢力は青年間には著しいものである。僕は目下最も多くの注意をこの派の大勢に注いでゐる。これ一種の靈的運動にして自由清新の氣が充滿してゐるからである。(四十二年一月五日夜十二時ロンドン東北貧民窟の近き一知人宅の一室にて認む)

エヴァン、ロバーツと語る

エヴァン、ロバーツといへば數年前ウエールスの信仰復興リバイバルで世界的に名高くなつた青年である。此度は此男と會見したことを書いて通信の責を塞ぐ。去年の十一月七日、僕は英蘭中央部に位して、皮細工で有名なるレスター市に行つた。それは同市の一教會の日曜午後の大人會(men's meeting)のこと、これは近年教會に起つた大運動で、朝の禮拜に來ぬ労働者を招いて、音樂、文學、宗教等の演奏や、講演や、説教をする仕組であつて、大抵の教會は之を行つてゐる。日本でも是非始めねばならぬ運動であらう。)にて日本の兒童生活に關する講演を托されたからであつた。何といつても、當地着一ヶ月になるか、ならずで、英語の講演をやるのだから荷が中々重い。初めは體よく斷らうと思つたが、此處は本當の稽古の住所で、失敗したつて外國人だといふので大眼に見てくれるだらう、相應にゆけば飛だ成功となるのだと、覺悟を定めた。一生懸命になつて草稿を作り、一通り友人に見て貰つて、これを携

え、同地に着いたのは秋といへど、風いと寒い夕方であつた。その夜は教會員にて、機關師をしてゐる人のホワイトハウスといふ屋號の家に泊められた。手篤き待遇をうけて、英國中流社會の生活がまことに羨しい氣がした。翌日曜の午後、僕は百人ばかりの労働者の前で、どうやら役目を済ました。僕は下手な英語を厚がましく饒舌つてみたいのは、日本人の友情を君等に傳達したいからであるなど、前口上を述べると、流石は日曜で、いづれも相當の服裝をしてゐた労働者達が一齊に拍手をした。僕は日本の童話を材料にして、日本の家庭生活に言及し、東西家庭に一長一短あることを述べ、將來は兩者の調和を計らなければならぬと決論した。聽衆は僕が三十五六分間、小長い文章を朗讀するのを最も熱心に聞いてくれた。題が題丈にわざ／＼傍聴に來た日曜學校の子供連もあつたが、教會の執事の娘で十二三歳になるのか、進みいで、一同を代表して握手の禮をしてくれた。僕は過分の讃詞を貰つ

て僕の白亞館ホワイトハウスに歸つた。

翌九日の月曜日は英國皇帝陛下の誕生記念日であつた。朝から霧がふかい。僕はラグビーの中學を見たいから、家族の方々に告別して、九時近い頃、中央鐵道の停車場を志した。霧は中々晴そうでない。まるで大海の中を行くやうだ。電車は燈をてらし、ベルを八かましく鳴らし立て、徐行してゐる。つぐみは霧の中の梢の上で囁つてゐる。左の方にみゆるヴィクトリア公園は霧の中にあつても一種の趣きがある。かう考へると厄介な霧が中々詩的である、こんなことを考へながら、停車場に着くと、これはしたり、二三分のこと、ラクビー經山の瀛車に乗り遅れた。次の瀛車迄二三時間も待たねばならぬ。停車場にゐるも馬鹿くしいから市中の見物をしてやらうと思ひ、一ペンニ一の案内記を買つて、繰つてみると、停車場の向側の大建築物は青年會館だ。占めたと小躍りして、同館に至り、刺を通じて、幹事に面會を求めた。副幹

事が出で、來て、日本人を珍らしがり、大變親切に、館内残る隈なく案内してくれた。僕は厚く禮を述べて別れんとすると、副幹事は突然、君はエヴァン、ロバートの名を聞いたであらうが、會見してみたい氣はないかといふ。出来るなら、勿論會つてみたいと答ふ。それなら紹介狀を書いてやるとて、早速ペンを走らせた。

さてエヴァン、ロバートはウエールスの大リツアイツアルの際、過勞したために非常なる神經衰弱にかゝつたのであつた。然るにレスター市に婦人の平信徒傳道者でペン、ルイス夫人といふ人が、大に氣の毒に思ひ、ロバートを引き取つて色々と治療を施した。そこで昨今ロバートは大抵平癒した。しかしペン、ルイス夫人は嚴重に監督して多數の人々にあはせぬ様にしてあるのなそうだが、僕は遙々日本から來たのだから、會はせるだらうと副幹事はその旨を同夫人にかきそへたのであつた。僕は悉しく道順を聞き、電車に乗

り込んだ。もう十一時過で、霧も次第に消えそめて、うららかなる秋の日が
うるはしく兩側の赤煉瓦を照らしてゐる。さて電車から降りて、一町ほど横
町を通り抜けると、さも閑静なる一地域の片ほとりに、二階建の清楚な一棟
がある。それはベン、ルイス夫人の宅だ。刺を通じて、先づ應接間に通され
た。僕はとりあえず、書棚を検分して、主人公を想像しはじめた。文學書も
多いから、まさかにロバーツとの會見を拒絶する様な無鐵砲なこととはしない
だろうと考へたものゝ、同夫人が何をいうかと少々氣懸りだ。

二三分すると戸がスーと開いた。現はれたるは女人ではあらで、眉目清秀、
白顔無髭の二十八九歳の一青年である。突然僕の右手を堅く握りて、私はロ
バーツだといふ。ヴェールス人の英語だから餘り明瞭ではないか、夫抵はわ
かる。僕は君の名は日本まで聞えた、そこで當地に來た序に御訪ねをしたの
だといふ。そうですか、それは御親切にと、一方は大に喜ぶ。ゆつくり話を

うでないかと、ロバーツは僕に椅子をすゝめ、二人で火爐のほとりに對座し
た。僕は初對面で本當に案外に感じた。この無邪氣にして天真な一青年がウ
ェールスの數十萬人を動かしたのかと思ふと、殆んど信ずることが出来ぬ。
僕も何から話をしかけてよいか、當惑したが、彼の笑顔に勵まされて、病氣
の見舞やら、今後の計畫のことを尋ねてみた。ロバーツはいふ、僕は十分に
本復しないから、靜かに祈禱をしてゐる丈だ、僕の事業は聖靈の事業だ。聖
靈はこれを通じて働くべき人を待つてゐる。僕はまたリヴァイヴァル運動を
やる積りだが、それは何時に再始するかは僕には決められない。これから彼
の神學論をはじめた。彼曰く、僕は神の世界とこの世界との間に天使の世界
のあることを信ずると。かういうた時彼の眼が一しほの光りをそへて、さら
でだに人を魔する容貌はさも人なづかしむる趣きを加へた。ローバツはリッ
ヴァイヴァル運動に従事する以前は南ウェールスのさる鑛山の坑夫であつたこ

とは人の能く知る所であるが、當時既に彼は詩を作つて、友人を驚かしたと
うだ。彼は矢張り詩人だ。彼の神學は詩人の神學だ。彼の身體は二十世紀の
世に立つてゐるが、その魂は中世紀の色彩を帯びて、ダンテと共に天堂逍遙
の路にあるのだ。僕も一見して、これを解したから、こちらから議論などは
しかけない。僕はポケットから一ダースの富士山の美景のゑはがきを取り
出して、わざ／＼日本から持つて來たのだから紀念のために君に呈するとい
ふと、ロバーツは大に喜んで、神の作りたまへるものは美しいかなと、一枚
宛見ほれてゐる。それでも神の國はこれより美しいだらうと附言する。

僕はウエールスに於ける、彼の運動の結果を聞いてみた。すると彼は、今日
までも善良なる部分には立派な感化が残つてゐるなど、いうて、それから、彼
のリツァイツァル以前のウエールス地方一般教會の禮拜振を批評して、あまり
規則的、人爲的にして聖靈をして個々の魂に働かしむる餘地を與へなかつた

とて、自ら起立し、聖書を開いて、牧師の朗讀の真似をしたり、讚美歌何番と云
うてみたりして、一人で興に入つた。もう二人の間は十年の知己のごとく遠
慮も何もなくなつた感じがした。ロバーツは、此度は椅子をのけて、爐邊の上
に尻をつき、右手を僕の膝の上のせて、抑ふべからざる笑顔と、詩人の口吻
とを以て聖靈を説くのである。これを飲み込めば、日本にだつて、何處にだ
つて大リツァイツァルは生ずるのだといふ。時計を出してみると、一時間近
く過ぎた。次の瀛車に乗り後れまいと、惜しい別れを告ぐると、彼は別室よ
り、ベン、ルイス夫人の著したる「カルバリの十字架」と題する書を持つて來
て、見かへしの上に「エツアン、ロバーツより内ヶ崎君に、千九百八年十一
月」と町呟に直書し、その下に小文字で羅馬書六章二節、馬太傳三章二節と
書きたして、紀念のために受取てくれといふ。僕は感謝して、何よりの形見
だというてこれを貰つた。僕は吳々も彼の自愛をいのり、固く握手して別れ

た。玄關をいで、二三間歩いて小門のほとりより後を振り返ると、彼は満面に笑ひを帯び、右手を高く頭上にかざして、幾度となくうち振りく僕を見送つてゐた。僕も更にグロッドバイと一聲高く叫んで、停車場へと、色づきそめたる樺の並木路を急いだ。

彼が僕に残したる印象はまことに甘美なるものである。一體にウエールス人はケルトの血を傳へてゐるので感情がことに發達してゐる。彼等は天成の音楽者である、詩人である、宗教家である。僕は未だ聞いたことはないが、ウエールスの説教者がウエールス語でウエールス人に訴ふる時に、最後の部分はホユールと稱して、一種の音調を附して、歌ふがごとくにして終るといふことだ。僕が知己になつたオックスフォードの學生中、五六人のウエールス人の性格の研究から歸納すると、彼等は英人のごとく規律的でない、數學者でない、又實際的でない。しかし何處までも親切で、音楽や文學が好きで、友達

としてはまことに交際し易いことを觀察した。この感情的の民族に對して感情的のエツアン、ロバーツが訴へたのである。枯草に火がついた様な結果を來たしたのは怪むに足らぬ。今日ウエールス人で、英蘭の宗教界に活動してゐる人々は少くない。會衆派に此人ありと知られたるウエストミンスター會堂のモルガン博士、新神學の副將を以て目せられてゐるブライトンのロンダ、ウイリアム氏、ユニテリアンの少壯牧師中最も有望なるノツチングハムのロイド、トマス氏のごとき、皆ウエールスの血を受けてゐる。宗教家以外ではグラスゴー大學の哲學教授にして、僕等のマンチエスター學院のヒツパート講師たるヘンリー、ジョンズ教授や、大藏尙書で名望を博せるロイド、ヂョーデル氏ののごとき、皆この血統に屬する人々である。ポリア戦争の時、ロイド、ヂョーデル氏は非戰論を唱ひ、英蘇の人士は血に酔うてゐても、我等の正義の主張を曲げないというて、時の殖民大臣チャンパーレン氏の本據のパーミ

ングハムに肉薄して、殺氣を含んだ聴衆にあはや半殺しされんとしたこともあつたそうだ。かゝる熱血の士を出すウエールスの國民性は大抵想像するこゝとが出来ぬ。かゝる事を考へず、朝鮮人よりも冷血だと専門家が鑑定したる日本人、基督教の知識の至つて淺い、もしくは皆無なり日本人に向つて、ロバーツの術を應用せんとしても、果してどれ丈成功することが出来るだらうか。かりに此條件が日本人に具備してあるとしても、中心的人物はロバーツのごとく人を魅する吸引力ある詩的の性格を備へてゐなければならぬ。平生は小刀細工をやる宗教家などが、俄かに聖書の文句を引張つて、リツアイツアル呼はりをした所が、若くはドクマで束縛されてゐる散文的の老宣教師達がいくら叫んだ所が、ロバーツの眞似は出来まい。

又局外者にウエールス殊にロバーツの影響の最も甚しかつたグランモルガン州邊の諸教會の現状を聴くと、感情的に這入つたものだから落伍したもの

多い、残つてゐるものも少くはないが、差引勘定したら、何うも判断は出来ぬといふ。しかし結局いくらかの利益にはなつたであらう。僕自身はロバーツの人格を愛好するが、所謂リツアイツアルを信ずることは出来ぬ。眞正のリツアイツアル、即ち靜かな中に力のあるそれならば勿論賛成だ。日本では歴史と思索との研究のもとに基督教の大精神を研究することが必要である。神は愛である。これを哲學の語に翻譯すれば神は理性であるといふことだ。理性なくして愛あるべからずだ。歴史も、科學も、學問も、皆大靈の働きた。僕自身の經驗より考へても、日本の基督教徒の哲學的素養は頗る不十分だと思ふ。神を愛するとは神を明かにすることである。これが明かになつてゐる人は極めて少いではないか。説教者も信徒も神は愛なりで満足して、その上深く入り込むことを躊躇してゐるではないか。これは眞面目な問題である。

神の靈は常に吾等の内外に遍在す。たゞく吾等の自覺をまつのみである。

深い、廣い、清いリヴァプールは常に來れ。感情的な御祭騒ぎのリヴァプールは願くは永遠に日本の天地を見舞ふこと勿れ。(六月六日朝)

アイシス河畔の春色

陰氣な英國の冬も四月の初めから俄かに北の空に逃げ仕度をなし、西南の方より、のどかなる春風が吹きそめた。生垣、公園、牧場、丘陵、さては煉瓦作りの家々にからまる常春藤などに至る迄見るごし見る物、すべて青々と元氣づいて來た。色々の鳥が鳴く、桃に似たアルモンドが咲く、水仙の黄金色な、プリムローズの白くまた紅なる、その他サフラン、ツリーツブ、ナースィッサ、デイジイ等のとりくの色が何處の芝生をも飾つて居る。かく單に自然が過ぎたる半年間着古したる灰色の上衣を脱換えたばかりでない、佳人淑女のボンネットからスカートまでがどことなく春の姿をちらつかすのである。

この時に於て、僕また故園の春色を想ひやる。霞棚引く早稻田の森を考へ出す。櫻はみたい、菜の花は眺めたい、鶯の聲は聞きたい。遊子の心は絶えず祖國の春を慕うて、そゞろに神往の感がする。されど僕はこの國、ここにオックスフォードの春に特別の感興を覺えてゐる。波靜かなるアイシスの流や、老樹のかげをうつすチャールウェルの水や、スコットの物語を想ひ出さしむるカムナリーの岡や、若葉の香ひ高きワイトムの森や、薄倅の麗姫ロザンモンドの悲運を語るゴットフレイの廢塔や、内亂時代に王黨と民兵とが鎬を削つて戦うたるアイスリップの村落や、鐘聲いまでも千年の昔を繰り返へすイツフレイの古寺等いづれかそれの歴史の聯想と自然的美觀とを以て極東の孤客を慰め且つ勵まざることやはある。あゝ美なるかなアイシス河畔の春色！

學生基督教青年會萬國大會の側面觀

この度オックスフォードに於て第八回基督教學生青年會が開かれるので、丹羽幹事はわざわざ渡英されることになったが、僕にも代表者の一人となれといふ御達しがあつたから、辱なくこの重任を拜受した次第である。當地に居續けて、只會に出席さへすれば宜い様なものゝ、幾千の同胞青年諸君を代表する一人と思へば中々荷が重いのである。二週間程前にモット氏より直書があつて、開會中は英國青年會の好意をうけて、何處かの學院附屬の寄宿舎に引越してもよろしとの事なれば、非國教徒の學院の比較的素寒貧なる寄宿舎を巢立つて、五六日位でも裕富なる國教學院の寄宿舎をのぞいてみるも一興と心得て、直ちにその事を御依頼した。四五日過ぎてマンズフィールド學院講師のエヴンス君(この人は大會の書記長といふ様な位置にあるのだ)の室に行つて聞くと、僕の室はハーフオード學院に定めたといふ事だ。とにかく御客分の僕等は何の用事も仰せつけられず、たゞ會の始まるのを待つてゐるのみであつ

た。そのうち丹羽君は海陸の長途無事にロンドンに着かれたといふ報があつた。十二日の夕同君をマンチェスター學院の寄宿舎の僕の室に迎へた。聞くやら、聞せるやらで、楽しい數時間を送り、猶僕は丹羽君を同君の宿所たるキープル學院の三階か四階か九で巨城の様な大寄宿舎の一室に送り届けた。また尻を押しつけて、十時の門限が過ぎるのを知らずして語り合つた。友あり遠方より來る豈樂しからずや。孔子様は中々人情に通ぜられた方だと今更のごとく東洋の故聖をなづかしむ。

十四日の午後となつた。僕は目下マンチェスター學院に開會中の社會奉仕同盟の夏期學校に後髪をひかるゝ氣がしたが、目星しい講義は聞いて了つたから、いよゝ手廻りの持道具だけを、手提カバンに入れて、丁度來合せた丹羽君と連れたちて二丁程放れてゐるハーフオード學院に引き越した。門番先生日本の代表者の手輕ないで立ちに、少からず驚いてゐる。二階の十六

號は僕の室だ。見まはせば中々に立派な室である。舎監室なそうだ。僕には勿體ない程立派な室である。すぐにキール學院の食堂に出掛ける。校庭には各國の代表者が國名を書いた丸い緑色の目標を胸につけて、三々五々群をなしてゐる。その他皆モット氏、フリース博士とも挨拶をした。御互に無遠慮に話しを仕かける。ドイツを筆頭にして支那、スペイン、イタリー、スウェーデン、ノールウエー、スイツランド等の代表者とすぐに大の仲善しになつて了つた。南歐の代表者には僕より身長の低い人が少くない。これ迄ヒヨロ長い英人の間にのみ混じつてゐたのが、我黨の士ありと思つて、やゝ意を強うした。キールの食堂の天井の高くて、廣い事、丸で體操場の様であると思へば給仕までが體操教師その儘の屈竟な體格だ。ノールウエーのエツコッフ老教師と邂逅した。その人は二年前の東京大會に來た時、米國大使館からの歸途、電車で僕とイブセンの話をした人だ。向側の牧師はスコットラ

ンド人で、永らくハンガリーのプタベストにゐるとの事、先年本多、井深兩氏に會つたというて、いろ／＼な追懷談がある。右隣りのドイツの某氏はグンデルト君の友人であるとして、話しが内村氏に及んだ。こうなると世界は至つて狭いものである。聽て會長フリース博士は何時も變らぬ元氣と愛嬌とに満てる容貌を以て、簡単な歓迎の辭をのべる。英國を代表してタットロー氏が、歓迎の辭に加へて事務的報告があつた。食事が終つて校庭に出ると七時半だが、薄明の長い英國の夏のことゝて、まだ／＼明るい。所へ英國の一委員が來て、イエス學院の食堂に各國語の書籍の陳列をするから日本書籍の分を擔任してくれといふ。スウェーデン、ノールウエー、ドイツ、支那、日本うち連れてゆく。日本からどんな書物が來てゐるかを見ると、警醒社發行星野氏編輯の基督教叢書が八九冊と金森通倫氏の著述で、今は著者の名を公にされない基督教三綱領と申す片々たる小冊子と、東京に開かれた第七回大會の日英兩語の

報告書と開拓者五月號一部あるのみだ。いくら智識的に素寒貧な日本なればとて、是等以外にも、もうすこし代表者となるべき基督教文學はある筈だ。一體誰がこんな選擇をしたのか僕は不平でたまらない。それ丈の書物を通して日本の基督教の現在を想像する人ありとせよ。日本といふ國は異教國に毛がはえかゝつた所としか見えぬかもしれぬ。僕は九時半頃ハーフォードの寄宿舎に歸る。十二三人の同宿者がある。他の代表者はキープル、ワダム、ベリヨルの三學院の寄宿舎にゐるのだ。十時に十四番室のイタリー人パーテス君の室にて手短なる祈り會がある。カナダはトロントから來たるマレー君が司會者だ。同君は久しく印度にゐたとやらで、先年元田、原田二氏の御宿をした事があるとて、僕と打ち解けて日英文明の比較論などをやつた。英人が特別に日人を珍重するは面白いことだ。イタリーのパーテス君はネーブルより來たのだ。心理學と醫學を研究中だ。この頃日本語を研究しはじめたと

て、片假名丈は讀める。追つて日本の心理學者と文通したいといふから、元良、松本兩博士に紹介してやらうといへば本人は大喜びだ。僕は日本でもダンテをその原語に讀みたしとしてイタリー語をやつてゐる篤志者があるといへば、直ちにポケットから縮刷の神曲一卷を出してみせた。ダンテの今日のイタリー人に尊敬せらるゝことの大なることが解る。やがて會話の題目はミケランゼローとラファイル、チ、アンとテントレットとの比較談に入る。僕の覺束ない美術論も幸にして同君の賛成をえた。十一時の鐘を聞いて自分の室に歸り、舎監のインキとペンを借用して、これ迄の日記をかいた。ペンを擱くと午後十二時のニュー學院の鐘が窓前に落ちて來た。あゝねむくなつた。

十五日午前六時半頃眼がさむる。寢室の窓の外部にからまる常春藤が朝日に輝く。隣の勉強室に來てみると、窓外の花箱には紅のゼラニウムが今を盛りと咲き匂うてゐる。七時半過ぎに公園路の綠陰を抜けてキープル學院にゆ

く。八時には壯嚴なる大禮拜堂の中にゐる。總て大勢の人々が集まる。國教會の僧服をつけたる中年の牧師が國教會の祈禱書によつて司會す。僕ははじめて國教會の禮拜に出たのだから萬事もの新しく思はれる。凡て祈禱書を讀みつゞけるのだから、時には、沒趣味にして調はざる即席の祈禱を聞くよりも却て宗教的感情を動かす場合があるかも知れないが、もうすこし自由がありてもよさうなものである。朝飯の時は支那の王正廷君と隣合ひになる。二年前に東京に快談し、今は此地に相見る。彼はエールに學び、我は英國に遊ぶ。また奇遇ならずやである。さて丹羽君にきくと、日本書籍の出品の事は日本の青年會か興り知らないといふ。英國學生青年會本部が自ら蒐集したものと云ふ。されど「基督教三綱領」には明治四十二年五月出版としてある。いづれにしても最近何處かの手を通して日本より取り寄せたものにちがひがない。

午前十時から祈禱默想の會があり、フリース博士の勸話がある。續いてモット氏の過去四年間事業の發達の回想がある。これは開拓者にてその要點を公にするだらうから茲には述べぬ。要するにモット氏の人物は段々に大きくなる様だ、將に將たるの器が次第に大成されんとしてゐる。彼が世界の學生青年を念頭に置いて大經綸を實行しつゝあるは實に壯觀である。モット氏と神學説を異にするものも此點に於て氏に感服してゐる者英國にも少くはない。どうか日本の青年會はこの雄大なる指導者より雄大なる精神を學ばんとをのぞむ。つゞいてラウス嬢が、女子青年會の報告をされた。長身にして威容ある淑女である。この部の進歩も大に祝すべきことである。

午後三時からモードリン學院の庭には大學副總理ワッレン博士及び夫人主催の歡迎園遊會がある。鹿が靜に戯むる庭、文豪アヂソンの逍遙路の名ある樹間の散歩所や、とりまぜて一行を楽しませた。僕は種々の人と談話し

たが、グラスゴーの一青年との會話を忘るゝことが出来ぬ。この青年はスコットランド、ことにグラスゴー市に在學する外國學生の親切なる友となるを期してゐるのだ。日本の一學生が四ヶ月も同市にゐる中、談話を交へた蘇國人は二三人に過ぎなかつた。こんな風では困るところぼしてゐた。邦人がとかく引込思案で、下宿屋的生活のみ海外に營むは實に愚の至りである。

四時半より舊教國に於ける教務の報告がある、伊太利、佛蘭西、西班牙、葡萄牙、匈牙利等の代表者の短かい演説がある。

夜は社會問題に關して、北米合乘國、佛蘭西、英吉利等の代表者の精密なる講演がある。社會問題の研究熱は青年會にさへ進入する様になつた。以て時勢の推移を知るべしである。日本は社會問題が多過ぎる程あるのだから、學生青年會、就中大學及び高等學校程度の青年會では組織的に風教問題、健康問題、勞働問題等を研究されたならばよいと考ふる。

十時寄宿舎に歸る。伊太利人、ペトリス君の室にて祈禱會がある。ハーフオード學院に宿れる連中は蘇蘭、英蘭、瑞西、獨乙、瑞典、加奈太、伊太利、丁抹等の代表者十數名である。嚴肅な會合の後に色々面白い話がある。感興つくる所がない。

十六日、夜來の雨は霽れる景色もなく午後天気氣掛りである。祈り會昨日のごとし。朝飯の席上右隣は韓國より來れる英國宣教師ウエーア君である。忽ち話題は韓國に移る。同君は伊藤統監の轉任を惜んで曾根禰統監の武斷政治家でないかを危んでゐる。それより色々観察談をきかせられた。日本より移住せる多數の無賴漢は日本の累をなしてゐること、韓人の平和なる性格は日本民族の活動的性格を補ひ、相合して完全なる國民性を作るだらうなどいふ注意もある。兎に角五年間定住せられたる人の觀察談なれば僕は謹聽した。左脇にウエールスの代表者が控へてゐる。エヴァン、ロバーツや大

藏尙書ロイド、デヨウルヂ氏のことなどを話し合ふ。午前十時よりエキセタ
「學院の會場にゆく。謙虚して基督と一たれといふ主旨にて某氏の説教が
ある。格別に報道すべき點はない。續いて左の問題の研究にうつる。

學生同盟の目的を果すために各青年會の聖書研究會は如何なる點を重視す
べきか。

(一) 指導の改善

これについては米國合衆國の巡回幹事の某氏の綿密なる説明がある。米國
特有の組織的考案はづばらに流れる傾きある東洋人に對しては好個の暗示で
ある。

(二) 如何にして聖書研究をして福音宣傳の目的を助けしむべきか。

この問題については支那の陳君とわが丹羽君とか短かい文章を読んで、兩
國の青年會の聖書研究會の方法を説明された。丹羽君昨夜俄かに幹部の依頼

を受けられたそうで、急に準備せられたそうで、東洋人に對して十分の準備
を與へないのはやゝひどいと僕は思つた。

(三) 關係國民の境遇に適應すべき方法

その問題についてはオランダの少壯教授某氏が公平にして思慮のある文章
を読まれた。終りて討論の宣告がある。等しく代表者とはいへ、丹羽者は正
使とすれば、僕は副使といふ格だから責任は従つて軽い。小面倒くさい事は
一つも仰せつからぬ。終りまで緘黙を守らうとも思つたが、日本の青年のた
めに辯解すべき時は此處だと考へて、第一番に壇上に立つた。僕は上記四代
表者の説明には全く賛成であるが、いづれも方法手段に重きを置かれたから、
精神的方面を高調すと前置きして、第一、聖書研究會の指導者は詩的空想に富
む男女たるを要す。聖書は大なる幻を見たる人々が熱誠と、空想と、正義とに
始終したる民族と個人とを記録したるものである。故に研究指導者もかゝる

情操を備ふることが必要だ。第二、博學の士、卓見の人たることを要す。聖書は歴史、風俗、習慣を異にしたる極東の青年には難解の書である。猶太民族の背景、バビロン、エジプトの感化を除外して説明することは出来ぬ。又東洋從來の宗教、倫理、哲學を理解せねばならぬ。イエスの東洋に對する使命は是等のものを滅するためにはあらで、完成すべきためである。序に歐米の多數者の東洋を理解せざることに言及した。(規定の五分間は過ぎて、司會者のフランス博士は机をコト／＼やつたが、僕はやめない。)第三、人格の人たるを要す。東洋の青年に及ぼしたるモット氏の感化は氏の雄大なる基督教的人格のため、必ずしも神學說のためでない。その證據には同氏と同一の信仰の人は幾人もあるが、同氏のごとく偉大なる感化を及ぼすこと能はざるは何ぞや。とにかく青年會の當局者は單に事務的才能の人たるに止まらず、進んで豫言者的風格を具備することが必要だと論結した。時間が短かいから銅羅聲を上

げて最初から突駭的にやりぬいた。アメリカ、ロシア、フランス、ドイツ等の代表者が續いて評論に加はつて大に活氣を呈した。そこに支那の王君が出かけた。同君は快辯を揮つて極力僕を賛成し、最後に支那、日本に於ては宣教師が主動者の位置を辭すべき時代が到來したと斷言した。西洋人がいかに支那の風俗を解するに苦しむかの例に、もし支那を旅行して汽車中にて婦人に席を譲るはオックスフォードの街上に於て淑女の年齢を聞く様なものだ云々の面白い話しに満場どよめき渡つた。これが濟んでキール學院の午飯に歸ると、ウェールズの友は僕を捕へて君はケルト民族の熱情を有するといふかと思へば、イタリーのペルテス君は我意をえたりと僕にネーブルの繪はかきをくれる。パリの青年會幹事のグラウス君は僕の左腕を扼し、耳に口をあて、曰く、日本人は東洋のフランス人、我等は歐洲の日本人、君の肥軀の中にラテンの血が流れてゐると。西班牙のアラウジョー君は東洋代表者の英語

は我等をして顔色なからしむるなど、御世辭をふりまく。僕の暴論にも存外賛成者はある。僕のこのみ悉しく書いて、如何にも自己吹聴の様だが、大勢の他人の演説の要點を覚えてゐることは出来ぬから勢ひこうなるのだ。

午後二時にはテロムス河の舟遊びがある。大學艇庫のほとりから百餘の男女が小蒸気に乗ら込む。遅よく雨はやんで、風はあるが、日影が差しかけた。舟は勢よく流れを下る。廣い緑野が眼前にひろがる。吳越同舟どころでない、世界同舟とはこの事だ。僕は芬蘭の男女の間に割り込んだ。スウェーデン、ノルウェー、デンマークが集まつて来る。後側は英米の婦人達、その續はドイツの一群、ベルジウムの一団といふ様に割據してゐる。音樂好のフィンランド人、舷をうつ波の音や、ボンネットを掠むるそよ風の自然の音樂をさいて、何條黙してやむべき。僕の右脇のアンデルセン君が音どをとると、前後左右より、深みのある北歐の歌聲が流れいづる。スウェーデン、デンマーク、ノ

ウルエー皆これに合唱する。或は悲壯に或は快適に、音聲一昂一低、甲板の人皆默然として北歐民族の歌にきゝほるゝ。モット夫人や三谷民子氏のごときもこの聲にひかれて、僕等の近くに押し寄せて来る。北歐合唱は二十曲位はやつた。僕は恍惚として音波の中に漂うてゐる感がした。ドイツも負けずと歌ひ出せば、ベルジウムの一団はやゝ輕快なる調子にてわれわ顔である。船は約一時間流を下りて、更に舷首を回へてオックスフォードに歸る。歌は中々やむ景色はない。御鉢は東洋にまはる。支那は固辭して受けない。いよく僕にと來た。丹羽君は歌へるかどうかわからぬが、疲勞したとて舟遊に加はらぬかつたし、三谷さんは風向の變つたのに氣がついたが、知らぬ間に姿をかくした。それをフィンランド、ドイツの連中日本の國歌をやれと僕一人を包圍する。そこで此處は東洋にも音樂あることを知らずるのも日本の青年會を代表する一部分だと心得て、例の蠻聲を上げて國歌を二度堂々と連唱した。

甲板の一同鳴を静めて満聽したは感心し。フリース博士叫んで曰くニッポ
ンパンザイ。ドイツの連中がえらい聲だと騒ぎたつる。御互に鼻音のあるの
で同情があるのだらう。そのうち汽艇はクライストチャーチの大牧場に横着
になる。茶はキールブルの食堂で男女一語に御馳走になる。歸人代表者はサン
マツウィール女子大學の寄宿舎に別れてゐるのだ。茶後の協議會には「苦戦地
に於ける學生間の働きの要求と獎勵」の第二としてギリシア正教諸國の報告
がある。まづバルガリアのボアヂェツフ君の報告がある。續いてロシアの青
年會の報告がある。女子部のは某嬢がやり、男子部のはニコライ男爵がやら
れた。ロシアの國教の青年に及ぼしたる感化は極めて微弱である。この點に
於てロシア青年の心情は日本の青年に類似してゐる。ロシア文學の不健全な
るはこの背景を有してゐるからである。續いてバルガリア、ロシアの青年のた
めの祈り會がはじまる。佛人は佛語にて、獨人は獨乙語にていゝる。僕も日

本の代表者であればロシアのために同情をあらはすべき場合だと心得て、日
本語にてロシアの青年の中より光明にみてる偉人の起らんことを祈つた。か
ゝる萬國的集會に於ては多少外交的呼吸が必要である。而して僕は眞にロシヤ人
々民族の將來を尊敬せざるをえないのだ。會後リュウード君僕の肩をたゝい
て曰く、君のやり方は最も宜しきをえたと。

夕飯の席の右隣はドイツはミュンヘンからの代表者だ。ミュンヘンの話を
聞く。ドイツ人の性質は萬事抽象的、學理的であつて實際的でない。日本の
留學生が基督教團體に接近せぬも事實だが、僕等の側は外國人のために特別
の設備のないのも事實であるなど、打ちあけた話がある。

夜の協議會にては丹羽君が日本の青年會の現状について十分間の演説され
る。簡單なれども要點をつくしてゐられた。丹羽君は遠路わざわざ來會せら
れた丈、中々仕事が多い、日本の青年會の諸君は宜しくこの勞を記憶すべき

である。

第二席は印度のマヤダース嬢の演説。純白の服に桃色絹の細長いを頭より全身にたれて、淺黒くはあるが、氣高い凛としたる容貌、いはざるに先ちて、満堂の視線を一身に集めた。明晰なる美はしき英語は不幸なる印度婦人のために血あり涙ある訴をなすために操つられた。印度婦人のみならず、東洋婦人の代表者として、いひ分なき青年婦人である。第三席は米國女子青年會幹事の詳細なる報告があつて、米國にもそれ相應の困難のある事を理解するをえた。米國婦人の活動振には感服せざるをえない。

第四席は王廷君の支那の現状。即席演説らしいが中々の快辯である、支那民族は劣等人種にあらず、只倨傲の精神のために今日の状態を來たせる旨をのべらる。大喝采である。同君エール大學二年の勉強は見識を高め、英語が自由になりたること東京大會の當時に比して、隔世の感がある。僕は同君と握

手して、東洋のために萬丈の光燐をあげたることを謝した。

ロンドンの中村和之雄君も代表者の一人となつたが、多忙のために今日まで來會することが出来なかつた。午後到着の報があるから待つても來ぬので心配してゐたが、前記の演説最中に到着した。汽車で乗換停車場を通り抜けて、逆戻りをしたそうなる。仙臺高等學時校時代にはアポロといふ字名を持つてゐられたが、英吉利に來ても神話的事件を演出するのだ。僕が會場を出た頃にはもう宿所のベリヨル學院の寄宿舎にゆかれて了つた。甘黨の丹羽君は何かうまいものを口にしたいとねだる。コーヒー店にて茶をのんで別れた。十一時に舎内の祈り會から歸つてこの日誌をかく。もう翌日午前一時半だ。

復活祭

この月に這入つてから俄かに暖かくなり、一躍して春の天地が舞ひ込んだ

様である。雲雀の歌、つぐみの聲、燕の飛影、水仙、雛菊、鬱金香、或は空に
或は地に、とりまぜて、春帝の來駕を報するのである。十一日の復活祭の頃
には陰氣なる冬の壓迫の下より忽然として新生命の空に漲り溢るゝを感ずる
であらう。げに復活の喜びは北歐に於て殊に痛切に感ぜらるゝのである。遙
かに東方のエルサレムを想ひやれば、二萬の巡禮者はその時、聖墓教會のほ
とりに押しかけ、手にく蠟燭を捧げて聖墓より進りいづる聖火（僧侶の仕
掛火花の類なるべきか）を點せんと雑沓するであらう。復活祭の本場として
名高い西班牙では行列やら山車やらの大騒ぎがあらう。英國教會では堂前に
グロッドフラインデー（復活祭前の金曜日）の掲示を出して、信徒をしてガルバリ
の昔を忘れさせまいとしてゐる。羅馬教會はこの受難週間の木、金、土三日間
は鐘を鳴らさずして、各種の樂器を代用し、日曜の朝雲を破りて、喜びの音づ
れを俄かに鳴りいでんと扣へてゐる。東ロンドンに大部落をなせる猶太人は



庭 校 テー ナ チ、ト ス イ ラ ク、ド ー ナ フ ス ク ツ ナ

様である。雲雀の歌、ついでに鷹の飛影、水仙、雛菊、鬱金香、或は空に
 或は地に、とりまぜて、春の来報を報するのである。十一日の復活祭の頃
 には陰気なる冬の壓迫の下より忽然として新生命の空に漲り溢るるを感ずる
 であらう。けに復活の喜ひは北歐に於て殊に痛切に感ぜらるるのである。遠
 かに東方のエルサレムを想ひすれば、三萬の巡禮者はその時、聖墓教會の厚
 とみに押しかけ、手にく、燭燭を掲げて聖墓より進み出る聖火（僧侶の仕
 掛火花の類なるべきか）を點せんと無言するであらう。復活祭の本場として
 名所は西班才では行列やら山車やらの大騒ぎがあらう。英國教會では堂前に
 十字架、ツライア（復活祭前の金曜日）の掲示を出して、信徒をしてカナルバ
 の音を忘れさせまいとしてゐる。羅馬教會はこの受難週間の木、金、土三日間
 は鐘を鳴らさずして、各種の樂器を代用し、日曜の朝雲を破りて、喜ひの言づ
 れを俄かに鳴らして、おどろかせる。東ゴンドンに大節考をなせる海太人は



庭校チーサチ、トスライラウ、ポーオフスラウナ

五日の午後六後より踰越節を守りはじめたが、八日間の祝の品々を賣り捌く市場が大混雑をしたそうである。五日の夕、各家長は銘々の家族をあつめて、出埃及記の梗概を説明し、種子いれぬ麩包を割きつゝ、感謝と祈禱を捧げたであらう。さても人様々の世にもあるかなだが、苟くも薫風の吹き過ぐる時、百鳥の囀つる時、小羊の野に躍る時、若き想ひの人の胸にきらめく時、いづこにか復活の姿の見えぬことやはある。(四月八日)

バーミンガム監督とカノン、ヘンソンの對抗

一週間前から英國々教會の内部に一寸した波瀾が起つた。ロンドンのウエストミンスター寺院の隣に聖マーガレットといふ國教會の一會堂がある。内亂時代の長期議會中、議會派が毎朝六時に集まりて、牧師の説教を聞き、これに勵されて、王黨と論戦したといふ歴史のある會堂である。折々開かるゝ大風

琴演奏會はロンドン教會音樂の名物の一つである。昨年十月はじめ、僕は運よくこの演奏會に通らあはせて、秋の夕暮の一時間を名曲の音波に心耳を洗はせたことがあつた。管理者はヘンスリー、ヘンソン氏にして同時にウエストミンスター寺院のカノンである。此人は國教會自由派の錚々たる人で、英國宗教界の重鎮の一人である。時にバリーミングハムのジョーウエット氏（會衆派第一流の説教者）のカールス、レイン教會に附屬する貧民傳道館が三月三十一日に擧げたる紀念會で右ヘンソン氏に出演を求めた。處が、同寺區受持の國教會の牧師がそれを拒んだ。ヘンソン氏はそれに頓着せず、紀念會の演説をやつた。するとバリーミングハムの監督ゴリア氏は三月廿二日來同區受持の牧師と同監督とがヘンソン氏と交渉しても目的を果すことが出来なかつた旨を新聞に公にした三者間の往復書面を發表された。僕は國教會の法規に通じないが、非國教の成立以前（千六百四年）に發布された法規中に、牧師は他の教

區で説教する時は、豫め同區監督の許可を復ねばならぬさうだ。然るにそれは國教會内のとで、非國教の教會に應用されるかは問題である。自由主義のヘンソン氏は多分他の國教會ならばいざ知らず、非國教會にゆくのに差支がないと解釋したらしい。さてゴリア監督は社會主義者に近い人で、神學上にも色々著述のある。評判の人である。此人にして非常識な手紙をヘンソン氏に向けたので大に世間の同情を失うた。バリーミングハムは有名な工業地で、貧民窟の傳道は一日も忽にするとが出来ぬのである。それに態々出かけて説教したのが悪いとか何とか苦情をいふなんて、實に可笑しい話だ。一月程前にゴリア監督はカンタベリー大監督、ヨークの大監督と共にオックスフォードの學生に對して、印度の傳道について演説をした時、自ら國教會の守舊的態度を攻撃した。而して今は自ら保守な態度をとつてゐる。此邊が英國々教會なるものゝ雅量が大きいやうで小さい所である。ヘンソン氏はエール大學のライマン、

ピーチャー講演に出席するため、近日渡米せらるゝ等で、自分の態度は國教の法規に觸れたと思はぬと堂々と言明し、社會の批判に訴へてゐる。同氏が三ヶ月後歸英の時までには何とか落着するかも知れぬ。二十世紀の今日も中世紀の法規を盾にして愚圖々々いふなんて、英國々教會の改革期に近きつゝあるとを自ら證明するものである。國教會に屬する國會議員中には之を機會に國教會の牧師が公然非國教會を助け得る様に修正案を提出せんとしてゐるものもある。しかし國教會の講壇の上には非國教の牧師の立つとを許さなう。だが國教會には法規などに拘泥せぬ人の多い事は事實である。本月初めパーミングハムの國教會の二先輩がホルン氏のホイットフィールド會堂に来て説教したが、ロンドンの監督は知らぬ振りをしてゐる。兎に角正直な學者肌のヘンソン氏の反抗的態度によりてこの馬鹿々々しい法規が改正せらるゝ運びにもならう。英國々教會の中には學者ではチエーチ教授、ガーデナー教授

のごとき公平眞摯なる人々もあれば、僧職の中では、リボン監督、ハーフォード監督のごとき洪量の人々もあるが、非常なる保守的信條を有する大組織であれば、この派の或部分の學者の意見は一も二もなく、拜聴しなければならぬといふ譯はない。聖書字典で有名なるヘスチングス博士のごときまでさへ、その事業と、一種の天才と學界への貢獻とはいふまでもないが、猶何處かに遠慮してゐる所のあるのは識者の觀破してゐる所である。サンデー老教授のごときでさへ全然この嫌疑を脱してゐるとは申されまい。(四月八日)

市會堂總會のキャンベル牧師に對する信任

ロンドン市會堂の牧師キャンベル氏の近事を少しく書かう。同氏の新神學の運動が勢力を占むるに従つて、多少の壓迫が加へられはじめた。會衆派の大會は牧師名簿より氏の名を除いて了つたと傳へられ、非國教各派同盟も氏

を會員と認めない様になつたと噂された。同時にこゝろいふ流言が放たれた。それは同氏が餘り熱心になつて諸所を遊説し廻るから、大切な市民殿の基礎が動さはじめたといふことである。そこで一月末であつたか、同氏は市會堂の會員に訴へて、今や自分と市民殿の關係を明かにせねばならない。若し自分に不満があらば辭職する、ないならば市民殿を擧げてこの新運動の中心となつて貰はねばならぬ。よつて臨時總會を開いて大方針を聲明して欲しいといふ注文をした。氣早い人々のうちには同氏に年俸一萬圓を提出してロンドンの某處に新しい會堂を建てようと企てた向もあつたと傳へられた。然るに此頃市會堂は臨時總會を開いた。座席所持者千百名の中八百名出席し、會員以外には新聞記者の出席をも斷つた會合で、市會堂は牧師キャンベル氏の教訓と事業に對して十分の尊敬を表し、將來一致協同して、成功を期すといふ様な意味の決議案が満場一致で通過した。それから會計は財政の基礎の年を追う

て堅固になりつゝあるを數字の上より證明し、最後に從來の執事の外若干の評議員を選出して牧師の事業を贊助せしむる事にした。評議員中には六十歳以上の人多く、近頃國教々會より轉入したのも一兩人はある様だ。新神學運動が單に青年の心を動かしてゐるばかりでないことは明かである。此會合のキャンベル氏に對する信任案を通過した時の熱誠は非常なもので、キャンベル氏は碌々挨拶することも出来なかつた程感にうたれたと傳へられた。かくて新神學運動は一步を進めたというてよろしい。これと關係して面白い出來事が數日前に起つた。ロンドンの近くにウィブルドムといふ都會がある。そのウォルポール街の會衆派教會の青年牧師サッドラー氏は新神學の一方の旗頭である。この牧師の熱心のために教會が大に發展したが、會員中に反對者が起つた。そこで執事は總會を開いて牧師の信任問題を出したが、多數で通過した。然るに牧師は安心しない、少數でも自分を信任しない會員が居る所に居

残りたくない」と決心した。然るに同じ都會の他の街に無牧の會衆派數會がある。此處では會員全體の意向をきめて、サッドラー氏を迎へることに交渉して、承諾を得た。然るに多數の會員は牧師一人丈は遣らぬと意氣込んで執事全體に加ふるに三百名近い人數が牧師の後を追うて新教會に轉會することになった。新聞紙はこれは教會員の移住だからかつた。かゝる小事にも英人の眞面目な態度があらはれてゐて面白い。

キャンベル牧師對吳服商會議所

もう一つキャンベル氏の身について面白い事がある。同氏は英國の現代の説教會のうちで最も大胆に事實を表白する人である。數週間前、或會合で同氏はロンドンの西部の商店に雇はれてゐる婦人の中で餘程薄給なるがために不名譽なる職業を兼ねて居るものがあるといふ事に言ひ及んだ。早速そ

の言が新聞に出た。すると西部の商人は大に氣を揉んだ。就中多數の婦人を召し使ふ吳服商人は少からずキャンベル氏の言を氣にした。そこで吳服商會議所は臨時總會を召集してキャンベル氏は事實に基かずして商人を誹謗したのであると決議し、同氏に前言を取り消すことゝ會議所の代表者と面談されたことを申し込んだ。キャンベル氏は代表者には會ふを欲せず、會議所員全體の前に現るべし、但し前言は取消すことが出来ぬと、キツパリ挨拶をした。數日前吳服商會議所は六七十名の議員を召集してキャンベル氏を迎へた。同氏は一人トボク／＼歩いて行つた。流石は英國の實業家だ、そのアツサリした態度に少からず感動せしめられたらしい、十分なる尊敬を表して、同牧師の説明を聞いた。同氏は、余は事實に基いて言明したのであるが、必ずしも吳服店をのみ指したのではない。寧ろ自分は小間物商を指したのであつた。それ故に單に西部の店とだけ言つたのである、その店の名まで知つてゐるが、之

をあばく必要はない。兎にかく店女の給料はもう少し高めなければならず、監督宜しきを得ざる寄宿制度は廢止せねばならぬと説いた。折々拍手の聲さへも議員の中より起つた。會議所員も三四名意見を陳べて呉服店の給料がさう安くないこと、寄宿制度の監督は理想的に行はれてゐることなどを説き、キャンベル氏のごとき有力者の言は地方の店女の父兄を心配せしむべきを知りてこの會見を企てたのである。御互に理解することが出来たら、將來は提携して、この方面の刷新を計らうといふ様な打ち解けた會合となつて終つたそうである。キャンベル氏一場の言が七萬人の實業家によりて組織せられたる會議所を動かしたること、偉大なりといはざるを得ない。講壇の使命かくしてはじめて全うせらるゝと出来るのである。序にいふが、英國婦人の參政權運動については是非の評紛々たるものあるが多數の婦人を經濟上の壓迫より救濟せんとする一種の靈的運動とも見ることが出来る。この間には中

々微妙な消息が潜んでゐる。

今朝の新聞を見ると、キャンベル氏は過勞のため病氣になつた。次の日曜にはホイットフィールド會堂のホルン氏と、ケンシントン會堂のトマス、エーツ氏などといふ會衆派の少壯牧師が、市會堂に應援するといふことである。少壯者間の理解は保守派の先輩も抑ゆることは出来ぬと見える。(四月八日)

ブリス大將滿八十年祝會

四月十日は救世軍のブリス大將の第八十一回の誕生記念日で、この日この靈界の偉人は滿八十歳に達したのである。これに先だつ二週日のほど大將は老軀を提けてロシアのセントペートルズブルクに行つた。これは同國に未だ救世軍運動の開始の公許なきため、其下相談をするが重なる用事であつたらしい。大將は皇族、貴族、及び政治家中の有力者と會し、救世軍の事業を説明

し、善良なる印象をロシアの上流社會に遺して歸英された。旅装を解く暇もない位に、直ちにパツキンハムの宮殿より招待を受け、アレキサンダー女皇と目下御滯英中のロシアの皇太后とに拜謁した。打ち解けたる御物語りの後兩女皇は銘々の手帳を取り出でられて大將の署名を求められたといふ事である。君臣の間些の城壁なし。まことに美しいことではないか。

大將の祝會は英國は申すに及ばず、世界の注目を引き祝電賀詞ひきまきらず大將の手に集まつた。英國皇太子殿下と丁抹國王殿下とよりは懇篤なる御言葉があつた。大將は元氣益々旺盛にして、カナダの救世軍に答へて曰く「神若しこの僕に更に八十歳の壽を賜らば矢張りこれ迄の事業を繼續するのみ」と。その抱負の偉大なる、誠に少壯者を愧ぢしむるものがある。

この祝會を機として大將に對する評論がまた火の手を揚げた。大將一度永逝せば、救世軍は舵を失へる捨小舟のごときものにならんと、餘計な心配をする

ものもある。されども公平なる評家の研究によれば、救世軍の上官の子弟中、父兄の志を繼ぐもの割合に多く、且つ中には種々なる職業を經由して現在の犠牲的位置に甘んずるに至りたるもの少からざれば、その將來は決して悲觀すべきものでないといふ事である。又彼等少壯士官はよくその事業の困難を知るが故に、萬一危急の場合に臨む時は、身命を賭しても、その隆盛と進歩とを企つるだらうと豫期せられてある。

大將の生涯は一個人が如何なる大業を成就し得るかを證明するものである。近世の歐洲に於て大將の道義的事業に匹敵すべき偉績を果したるもの、故人にしてはグラットストンを舉ぐべく、現存者中にありては露西亞のトルストイと英國浸禮派の牛耳を執り、かねて非國教徒の總指揮官を以て目せらるゝクリッフォード博士とを指名し得べきのみである。トルスイトに就いては今更喋々する必要なけれども、クリッフォード博士の盛名は餘り日本には聞え

ぬ様であるから、序に一言する。同博士は丁稚あがりの獨學自營の士にして、七十一年の過去は苦戰奮闘の歴史である。今日數百萬人の非國教徒を率ゐて國教と對立する態度は天晴なる老雄である。同博士は會衆派と浸禮派の合同を希望してゐるらしい。英國にては二派の合同教會が少ない。これをユニオン教會といふ。會衆派にて小兒の洗禮を猶豫し、浸禮派にては浸禮を隨意とする様に互に讓歩して成立したる教會である。英國の浸禮派は米國派に比して遙かに寛容であるし、教會政治は會衆派よりも自由であると稱せられてゐる。キャンベル氏は市會堂に聘せらるゝ前はブライトンのユニオン教會を牧してゐたのである。かゝる傾向は大に歓迎すべきことだ。日本でも採用して差支はないであらう。

さてブリス大將の思想は舊神學が中心となつてゐるので、珍しいものでも何でもなし。惡くいへば時勢後れの神學だ。しかもこれを提げて世界的感化

を及ぼしたるは、その説く所あまり高尚に失せず、俚耳に入り易いためでもあるが、彼の人格が要素であるに相違ない。彼は讓歩を知らぬ人である。一事に熱中して萬事を忘却し得る人である。彼は自己の理想の上に現社會を改造せんと企てたる者である。彼は一個の専制君主である。この意味に於て、彼は靈界のザールともいへるであらう。又實際界のトルスイトともいへるであらう。一面より見れば彼はニイチエの所謂超人である。この事實は大なる教訓を興ふると思ふ。ことに新神學や自由思想を傳ふるものに多大の暗示を興ふると考へらるゝ。これ人を動かすものは思想のみでない、人格の力である。よし説その物に眞理を多く含むといへとも、これを代表する人物にして偉大なる引力を有するにあらざれば、社會的勢力となることが出来ぬ。英國々教會の舊式なるは前回の通信に一寸言及して置いたが、就中最も形式に重きを置く高教會（ハイチャーチ）が英國の大都會に著しい勢力を占めつゝある

は何に因するか。これその代表者中に人物が多いからである。非國教徒の牧師中には獨身の人数なしと雖ども、國教會には随分多い様だ。ヨーク大監督ラング博士のごときもその一人である。オードレイ博士の後を受けて日本に赴かれたるポッフラー氏のごときも同様であつて、當地の非國教徒中にも評判の善い方である。東ロンドンのオックスフォード館の長として貧民の間に善良なる感化を及ぼしたるウールコム氏のごときは非國教徒の新聞まで盛にその徳を讃めてゐる。僕はこの一月の某夜、同氏の案内にて數個の俱樂部を巡回したが、子供から老人に至る迄、同氏を敬愛すること一方ではなかつた。僕は未だに同氏より受けたる甘美なる感化を忘るゝことは出来ぬ。同氏も獨身者で、オックスフォード大學卒業後、全く一身を傳道にさそげてゐる。このたびはオックスフォード館の長を他に譲りて、ヨーク大監督の名代として、英帝國內の教會を巡回せるゝ筈で、この旅行には三年を費さるゝ計畫で

ある。又羅馬教が英米に於て勢力を得つゝあるは、實際徳望ある僧侶の存在を證するものである。又佛蘭西に於ては社會改良に熱心なるは新教徒中よりも却つて舊教徒中に多いさうだ。これは一つは前者の小數なるにも因るだらう。又新神學の方學の方面でもキャンベル氏の説は決して新しいものであるまい。ユニテリアン教徒中には夙にこれと類似の信仰を説いて來たのである。ユニテリアン教徒中には隠れたる慈善家品位ある學者等が輩出したが、未だ社會を動かす人物がこの説を代表しなかつたのでキャンベル氏を待つて初めて多數人を感化するに至つたのである。日本に於て比較的保守派なる本多、植村、内村三氏の感化勢力の大なるは、神學以外に各自獨特の人格の力があるからである。僕はブリス大將の教會に臨んで日本の進歩的基督教者がこの微妙なる意味を解せんことを希望するものである。

ブリス大將が、初めて路傍演説を試みた所は、東ロンドンのステペニー區の

マイルスエンドといふ町の敷石の上であつた。このたび救世軍はこれを記念するため公許を得て、紀念の文句をこの石に刻むこととなつた。僕は去る冬ハックチー通りの貧民窟に滞在した時、此の邊は度々通つたことがあつた。慥か僕もそれとは知らずに、その名譽ある石を踏み付けたかも知れないのである。時に西ロンドンには有名なるタイパンの絞首臺の跡がある。この絞首臺は歴史上有名なるものとなつて、矢張これを記念するため敷石に文字を鏤刻した。世界の大都ロンドンは東西相呼應して二種の敷石紀念を有するに至つた。しかも何等の對照ぞ。西なるは多くの人を殺したる所、東なるは多くの人を生かしたる所。西は失望を紀念し、東は希望を紀念す。好個の道德的對照ではないか。

(四十二年四月十九日夜英蘭西北部の工業市ホルトンの一旅館にて認む、窓外蕭々たる春雨を聞く。)

菜 食 主 義

近年英國では菜食主義が流行して、食物改善會などいふものが各地に組織され、オックスフォードにも、學生有志者と市民との聯合會がある位だ。又所所に菜食専門の料理屋もあらはれて來た。僕の學校でも晩食には菜食を實行するも多く、僕もその黨の一人である。然し菜食運動は割合に新しい事件である。去る四月十二日は唱道者スコットランドのチエネ博士の誕生百年紀念日であつた。同博士は一時非常に肥滿して卅六貫目の躰量となつたので、俄かに驚き、一切の肉類を廢し、主として牛乳と野菜のみを食して、普通の體格に回復したのが、この運動のそもぐの始まりであるとうだ。一時は世間より馬鹿にされて、端唄にまで冷かされたものであつたが、事實上菜食の利益が明かになつたので、これに賛同するもの多く、今ではトルストイ翁、ブリス大將、バー

ナード、シヨウ氏等のごとき世界的人物まで實行者となつた譯である。僕は未だ十分に肉食主義の起源を研究しないが大抵の見當はついた。これはその昔、アリアン民族は中央亞細亞の牧畜の民より起り、西亞細亞の山地を遊歴して歐洲に這入つたなれば、農業を發明するいとまなく、自ら牧してゐる家畜や、捕へたる禽獸を食するの已むを得なかつたが原因あらう。而して彼等が南部ロシアに入つては、農業を實行したらうが、氣候が寒冷なものと、先祖傳來の習慣の惰力のためとで、今日でも肉食が行はれて來たのであらうか。これに反して同一アリアン民族でも、印度に移任したものは、土地の豊沃なるを利用して、農業を創めたから、肉食人種となつた。又氣候が酷暑であるから、肉食することは實地的に不可能であつた。支那に移住した漢人種も黄河沿岸の饑地に落ち着いたから、農民となつて、肉食主義者となつた。勿論印度、支那、日本は魚肉を食してゐたから、絶對的素食主義者ではない。しかし西洋でも魚肉は

矢張食膳にのぼるから、これ丈は東面兩洋に普通として計算外に置かねばならぬ。さて肉食者のうちで、勢力絶倫なる人々が多い。即ちトルストイ翁、ブリス大將等の勵精奮闘はいふ丈野暮であるが、ペーナード、シヨウ氏は現代英國文壇の北斗星で、論文に、脚本に、英國の騷壇を一人にて斬りまはしてゐる概がある。是等の人々が絶對的素食主義であるから、日本でも徳富蘆花君を主として、これに則るものが多い様である。しかし日本人が絶對的素食主義者になるは餘程の考物である。何となれば、よし西洋人は肉食者であつても、日本人が想像する様に多量の肉を食するわけでないとしても、日本人とひとしなみに考ふるとは出来ぬ。日本人はたまた洋食を取る故に、割合に多量の肉食をしても健康を害さないものであらう。これ丈は斷つて置く必要がある。兎に角西洋人は數千年間肉食をやつて來たから、それ丈の資本が各自の體内に存してゐる。そこで肉食をやつても、俄かに元氣が衰ふるといふ事はない。しかる

に、日本人はこれに反して數千年間菜食をやつて來たから、この上絶對的菜食を行ふ時は、非常なる精神的及び肉體的活動に堪ゆるや、否やは、問題である。肉食の道德的方面は中々込み入つた問題であるが、とにかく肉食は菜食する人間に對してより多くの元氣と勢力を興ふことは明かであるらしい。

今や日本人は凡ての方面に就て西洋人と競争せねばならぬ時であるが、これ迄通りの菜食が主要なる營養物では、この競争にたえるや否や問題である。日露競争は個人對個人の力業の競争でなかつたから、日本人が露西亞人より肉體的優勝の位置にあると斷ずることは出來ぬ。

僕はむしろ精神的方面を數へてみたい。僕は日本人の才能を信任して自重するものなれども、堅忍不拔の精神は割合に足らぬ。即ち執着力が起らぬやうだ。大著述の少ないのをみてもわかる。又日本人に若朽早老の人々の多いのも運動不足のためかも知らぬが、一部は食物の關係であるまいか。そこで

僕は日本人はよろしく肉食をもう少し獎勵して、野菜と肉類とを半分々々に食する習慣を作りたと思ふ。即ち食物上の折衷主義である。これを實行してゐる人々は少くあるまいが、更にこの範圍を擴張したいのだ。

基督教の傳道が西洋の様に活力ある道德的人物を作り出すがその目的の一つであるとすれば、食物改善のごとき決して輕々に附すべきものでない。西洋では肉食に偏して來たから菜食を鼓吹する必要がある。日本及び東洋諸國では菜食に偏したから肉食を獎勵する必要がある。

京の着倒れといふ諺があるが、食倒れの方が餘程ました。但し同じ食ひ倒れにした所が、團子や餅菓子の食倒れは眞平御免だ。ならうことなら、滋養物で食ひ倒れる方がよい。これは食ひ倒れた所が子孫に強健なる體格が遺傳するからだ。

日本では戊申詔書の感化とやらで、副食物を減じ、飯に鹽を振りかけて、

忠君愛國と心得て居る人々が地方などには少なくないといふ事だが、以の外の不心得である。こんな消極的方針では、忠君にも愛國にもならぬ。興國の日本は多く食ひ、多く働き、多く得るを以て民族の大方針とせねばならぬ。神經衰弱的の宗教家の輩出は常分御断りだ。健全なる軀軀を以て、猶神秘なる宗教生活に入ることが出来る。人生に深き愛ひ、喜び、あこがれ、涙の消えぬ限りは、神秘は依然として存する。斯る神秘を味ふには強健なる體格が一向邪魔にならぬ。同學の一印度人が僕に牛乳と野菜との福音を説いた。如何にも尤だ、されど僕はそれ丈では印度の獨立は駄目だというてやつた。菜食は被征服者の食物でないかと勵ましてやつた。

(四十二年四月二十一日夜ホルトンにて記す)

教界近事の様々

ロンダ、ウィリアム氏の轉任——英國浸禮派同盟の新計畫——クリップフォード博士の視察——上流社會に對する英國々教會の警醒

新神學運動に於て市會堂の牧師キャンベル氏を大將株とすればその副將としてヨークシャーのブラットフォード市の會衆派教會牧師なるロンダ、ウィリアム氏を推さざるを得ない、同氏はウエールス生れの天性の雄辯家である。ブラットフォード市には二十一年間牧師の職にありて、同市の風教及び市政に多大の影響を及ぼし、英蘭精神界北方の一明星を以て擬せられてゐた。然るに此度南海岸のブライトン市の合同教會ユニオンチャーチの招聘を受けて、轉任するとなつた。同教會は嘗てキャンベル氏が、バーカーの後を受けて、現地位に就く迄、名譽ある成功を奏したる由緒ある場所である。愈々ウィリアム氏を失ふこととなつて、ブラットフォード市民の落膽は一方ならず、色々なる留任運動が試みられたが、同氏の決心を翻すことが出来なかつた。そこで市の重立ちたる人々

と他派の教役者が發企となつて、四月十八日の日曜の夜、同市の聖ヂョールヂ館に於て盛大なる送別説教會が開かれた。四千の席を有する同館は定刻前に満員となりて、佇立したるものを數ふれば、五千に近い聽衆が集つた。これでウィリアム氏の感化の如何に大なるかと推察せらるゝのである。ウィリアム氏は進歩主義に立ち、大胆なる告白を試みて、大に市民を鞭撻し、鼓吹した。翌月曜の夜は、同牧師の教會にて告別式が行はれて、平常神學説を異にする牧師達も來會して、いづれも飽ぬ別れの詞をのべ、教會は紀念として百十磅の小切手とケンブリッジ大學出版近世史十卷入れの書棚とを同牧師に送り、同夫妻に對しては個人として思ひ／＼の贈物などがあつたさうである。これでも如何に英國々民が宗教に熱心であつて、宗教家を尊敬することが理解せらるゝであらう。宗教界には矢張り人物が揃つてゐるは怪むに足らぬことである。嘗てフレデリック、ロバートソンによりて名高く、中頃キャンベル氏

の地盤となり今はこの有爲なる新進牧師を迎へたるブライトンは白沙青松の地、衣香扇影の郷としての外に大に誇るべきものを有してゐる。

○

英國浸禮教會は非國教諸教會中最も勢力あるものの一つであるが、教會政治が統一を欠き、そのためかあらぬか、數百名の教會なき教役者を生ずるに至り、且つ會員數も一昨年度より昨年度は減少し、昨年よりは今年度に於て更に下降的傾向を呈し、遂に同派の幹部をして、集中的政策を數日前ロンドンに開かれたる年會に提出せしむるに至つた。これは重大なる問題であつて宿題となつた。しかし基督の教訓を二十世紀の言語に解釋して、新代の要求に應ずるといふ決議案は何等の異議なく通過するに至つた。會長マーシャル博士はマンチエスター市の浸禮派神學校長で舊約書の學者だ。浸禮派で屈指の神學者であるが、舊約書の永遠價值について講演された。高等批評の結果は大抵

採用されたということである。思想に於て頑固なる浸禮派既にかくのごとしである。餘は以て想像するに固くない。國教々會の内部にあつても、舊約書に對する一般の見解は非常に自由になつて來た。バビロンとエジプトの感化を外にして猶太の一神教の發達を説くこと能はざるは、大抵の學者の承認する所である。又集中的傾向からいへば、先週中ポールトン市に開かれたユニテリアン及進歩派基督教徒の國民大會の決議も一人の反對なく此方面の大方針を定めた。從來最も個人主義的傾向の盛つてあつたこの派の大勢の感化は英國の宗教界を驚かした。而して老人連の元氣は大したもので、何れも新代の要求を解して、大氣焰であつたは實に豫想外であつて、英國に於ける進歩派基督の將來は光明と希望とに輝けるものなることを明かにした。要するに思想は益々自由となり、方法は益々協同に傾くは現代の基督教の大勢である。日本の組合教會の昨年度總會も疾うにこの趨勢に乗じたもので、機宜に適したも

のである。序にいへば日本の諸派は餘り日本といふ肩書を振りまはし過ぎる様だ。將來は東洋の教化を双肩に担はねばならぬものが、餘り國家的名稱を使用する時は、韓人及び支那人を感化する時に、つまらぬ故障が生せぬと限らぬ。何とか總稱的名目が欲しいものだ。松村介石氏の新運動には遙かに大に賛成の意を表してゐる。この新運動は非常なる見識のもとに生れたものである。但し日本教會と名乗つたは餘り門を狭くした感がある。この點になると印度のブラマソモジはえらいもので、單に神教會と稱してゐる。僕は松村氏の大抱負に尊敬の意を表し、且つその成功を祈ると共に、比較的に狭小なる名目を選定されたるを惜むものである。

さて浸禮教會はこのたびの大會を機會に一昨々日かホルボルの一旗亭の朝飯に於て、クリッフォード博士の爲めに祝宴を開いた。同博士は慥か昨秋

満七十二歳に達せしを以て、消々後れ馳せであるが、此の祝意の積りであつたらしい。食卓の五分演説は知名の士に試みられた。牧師ウード氏は曰く、クリッフォード博士は六人より成る、哲學者、政治家、牧師、人民の統率者、學者及び説教者即ちこれである。又曰く博士は明なる頭腦と、暖き心と、大なる靈魂を有すと。文部大臣ランシマン氏の讃辭に曰く、余は何等の宗派を代表せずして、國家を代表す。クリッフォード博士は一大市民である。彼はジョン、ノックスがスコットランドに試みたる事を英蘭の非國教徒のために盡しつゝある老雄であると。ホルトン博士は曰く、クリッフォード博士の生涯は一の神話である——永遠青春の神話である。彼はわが如く常に若々しかれと周圍の人々に説教してゐると。その他數々の祝詞の後に、クリッフォード博士は先づ諸君の早起を感謝すと口を開いて、靜かに語をついで曰く、余が國家に盡くしたるは牧會の餘業のみ、余は國家も、教會も、人民を顧みざる時

代に生れたのであつた。故に余は他迄も勞働者の味方となつて、余の牧會は常に時代の問題の解釋に先鞭を着けたのであつた。國家は教育と等しく神聖である。余は兩者のために働いたのは神の國を來らさんがためであつた。人は七十三歳になつても、三十七歳の如く若い氣でゐなければならぬ、余は決して退職せず云々。最後にクリッフォード博士は同夫人の肩に手をかけながら、諸君が彼女の若い亭主のために祝宴を開かれた事を彼女に代りて御禮を申すなどと言談をいひ、自分が批難せぬ限りは、他人の批難は恐れぬといふ記臆すべき格言を以て、意味多くして言葉少なき食卓演説を終つたさうである。同博士は一代の人傑とはいへ、英人の老を忘れて、公共の事業に奔走してゐること、まことに羨むべしである。日本にも中々元氣な老人が多いが、まだく英國に及ばぬ、大に奮發せねばなるまい。

國教々會のロンドン部會は昨日上流社會の豪華な生活に對して警告を發し、單純生活の福音を傳へなければならぬ旨を議決した。まことに適當な議決である。貧乏な日本でも上流社會は割合に贅澤三昧に流れてゐる様だ。彼等もまた單純なる生活の福音を要する連中ではあるまいか。

(五月一日、オックスフォードにて)

女子教育問題

近頃日本より來る新聞雜誌や友人よりの書信によると、今年度の各種の女學校の入學志望者が著しく減少したのとの事である。その原因の一は全國を通じての不景氣であらうが、或はまた近年勃興しかけたる女子教育熱が社會心理の法則に従つて一時的降下を示したとでも見るを得べきか。とにかく、今年丈の模様では餘り心配するにも及ばぬことであるが、祖國を離れて、遠目に

見てゐる僕にはたゞ事とは思はれない。僕は日本の女子教育問題は國家經濟問題や、國防問題や、外交問題等に劣らざる重大なる問題であると思ふ。五千萬人の殆んど半分を成してゐる婦人達の健康、品格、智見等は日本の現在と將來とを生み出す大原動力であるまいか。民族の殆んど半分を占むる婦人が依然として纖弱なる體質と、開發せられざる頭腦と、鍛練せられざる道念とを有する境遇より脱する能はざる時は、民族將來の發展は少からず妨げられるに違ひない。僕は日本婦人の長所を尊敬する。西洋に來りてより殊にしか思はざるを得ない。されど幾多の除外例はあるとしても、大體を觀察する時は日本の婦人は人間として受くべき十分の教育と訓練とを受くる機會を與へられなかつたといふて差支がない。併し土耳其、印度、支那朝鮮の婦人に比すれば自由を享有するは勿論であるが、歐米の婦人の享けてゐる丈け多くの便宜を與へられざるは疑ふべからざる事實である。

僕は女子教育の大なる賛成者である。一時は變則な現象も生ずるであらう。これは過度時代如何とすることは出来ぬ。かかる現象は男子教育にも伴うてゐる弊害である。しかるに些少なる弊害をみて、女子教育にケチをつけるものゝ絶えぬは實に嘆息すべきことである。

僕は日本婦人の健康は最も重大なる問題であると思ふ。身體の纖小なるは必ずしも薄弱なる證據ではないが、強壯なる子孫を生むに適せないのはいふまでもない。アリアン民族女性の健康は大移動時代の訓練に根底し、爾來東洋婦人に比してより多くの注意を體育に拂ふたためであらうが、まことに羨望に堪えぬ。而して西洋婦人の健康は美容の一大原因であるに違ひない。血液の循環よろしきを得れば、自ら血色の鮮かなるべき筈で、西洋婦人の麗貌は顔色の白哲なるのみにあらずして、適當なる運動によりて刺戟せらるゝ血色の新鮮にあると思ふ。これが二千年も遺傳し來りて今日の體格を現するに

至つたのであらう。日本婦人は嘗ては武道の嗜みもあつたが、其範圍は士族の一部に止まつたのみだ。今日その術を繼續する範圍は更に小なることと思ふ。農民の妻女は田畠の勞働にいそしむ故に健軀を有すれども、四肢の發育好比例を保つは少ない。これは單調にして同一なる力業をのみなす爲めかも知れぬ。されば婦人の健康は女子教育の任すべき所である。然るに女子教育熱はやゝ頓挫しかけてゐるとは決して喜ぶべきことでない。

次に智育の問題であるが、大體からみると日本婦人の智育の標準の低きは御話しにならぬというてよい。勿論幾多の閨秀作家あり、女流教育家あり、賢明なる婦人達あるはいふまでもないが、一般よりいへば西洋婦人に比して最も見劣りのせらるゝ點であらう。しかしこれは日本婦人の罪ではない社會の罪である、家庭の罪である。嘗ては神功皇后のごとき大識見家を出し、奈良朝の女秀才を出したる日本婦人は、男子に劣らざる腦力を有するは、異議の

ない事である。たゞ社會の不公平なる、常に婦人の教育を重要視せなかつたために、今日の非運を生むに至つたのである。僕は英國婦人が一般に智見と判断とに富むを見て、この美風は是非日本に移植せねばならぬと常に思ふてゐる。勿論英國といへども、女子は男子のごとくは活動しないが、一代の尊敬を受くる女流學者のあるは注意すべきことである。たとへば貧民法案の調査委員會は二派に別れて多数案と少数案となつて發表されたが、前者は維持者中最も賢明なるはボサンケット夫人であるし、後者の維持者中のそれはシドニー、ウエップ夫人であるとの評判がある位だ。二夫人共に名譽ある學者より成る男子の調査委員を壓倒してゐる。シドニー、ウエップ氏は講壇社會主義者の一團體なるフェビアン協會の統率者であるが、數週前オックスフォードにて同夫人と共に貧民法案に關する公開演説をやつた時は、同夫人の方が同氏よりも好評を博した位であつた。ボサンケット夫人は四月ポールの進歩

派基督教國民大會に臨まるゝ筈であつたが、病氣のために來られず、令兄をして論文を代讀せした。僕は不幸にして未だ、その警咳に接する機會を得ないが、近頃同法案に關する著書を公にされたので、同書を通じて同夫人の識見をうかがうことが出来る。

オックスフォードは學府であるから、殊に婦人の智見が進んでゐる。大學の公開講演には、その問題が政治、法律、文學、宗教、美術、音樂の如何を問はず、半数以上の聴講者は婦人である、マンチエスター學院のピツバート純正哲學講演は公開であるが、各種の女子大學の學生や女教師はいふまでもなく、老婦人達まで熱心になりて筆記してゐるのを見て、日本の女子教育の前途遼遠なるを感ぜざるを得なかつた。

僕は折々演説や説教に出かけて地方の教會員の家庭の様子もみたが、中流以下の婦人でも見聞が矢張廣いし、一通りの讀書はしてゐる。

日本の女子教育は長足の進歩はしたものの、中々のんきにかまへて、折角の進歩を中止する場合にはあるまい。

最後に德育宗教の問題について一言したい。日本で洋行歸りが西洋婦人の悪口をいふものがある。勿論缺點もあるに違ひないが、又大都會には一種の悪風の存するも事實であるが、まだく日本から悪口などをされた義理のものでない。在歐日本男子過半数の放縱は先づ御話しにならぬといふてよい。彼等のうちには魔窟見物のために、わざわざ洋行したといはれて仕方がない連中が多い。こんな連中が大きな顔をして歐米の道德觀など、日本で威張つてゐるから可笑しい。西洋の道德は基督教の内部より觀察せねば十分にわからない。基督教の智識の皆無なる旅行者が方々飛び廻はつて新歸朝者だといふて淺見を暴露して耻とも思はぬのは、誠によい面の皮だ。とにかく中流社會の婦人の道德は模範的であるといふてよろしい。勿論基督教以外の宗教は心

得てをらぬ人が多いが、基督教丈はよく理解して實行してゐる。去年の冬であつた、マーチノイ俱樂部の例會がマンチエスター學院に開かれた。講演者はケンブリッジのミス、カロリン、ステイブンであつた。此老淑女は有名なる文豪レスリー、ステイブンの令妹である。令兄なる人は不可知論者であつたが、妹令は神秘的なるクエーカー主義——靜寂主義の鼓吹者となつて、英國思想界の注目する所となつた。其夜ミス、カロリン、ステイブンはクエーカー派の目標ともいふべき黒い上衣に雪のごとき白き布にて頭を包み、銀鈴といふべき清らかな聲にて見神の經驗をのべられた時は、満堂の學者、淑女、青年、いづれも一種崇高の感にうたれた。その言語の發音のうるはしきは老淑女の靈魂のいかに澄み渡つてゐるかを想像せしめた。多くの學友は生れてはじめてかゝる明徹なる發音を聞いたというて、恐らくは君以外の日本人で、こんな美しい英語を聞いた人はあるまいなど、僕を祝してくれた程であつた。僕は

カーペンター先生の紹介にて同淑女に挨拶したが、いひしらぬけ高きもの、前に立てる感がされたのであつた。この老宗家は近頃限りなき世の旅路に赴かれた。僕が幸にして一度にてもこの音容に接し得たるは非常なる特権であつたと喜んでゐる。

何といつても基督教國であるから、その感化のもとに婦人の宗教道德の觀念が非常に深く發達して來てゐる。日本の女子教育はかゝる深い尊いものを教へ込まずして、上すべりの教育のみを施すから、變性女子や、中間婦人といふべきものを産み出して、却つて社會の同情を失うに至つたのであらう。

とにかく日本の女子教育はますます發達させねばならぬ。社會の機運が未だ大なる便利を與へぬにせよ、有爲の婦人達自ら奮ひたちて、大にこの道のため盡されんことを望む次第である。(七月十日)

防火と社會道德

一、道德的防火法

大阪の大火は天下の耳目を驚かした。昨今到着する日本新聞紙の報道によりて略々慘狀を想像することが出来る。近年稀なる酷暑に際して、幾十萬の老幼男女が棲むに家なく、當分極めて窮屈なる生活を營まなければならぬこと、誠に同情に堪えない。余は遠く海外にありて、單に言語上の同情を呈するより外に方法はない。幾多の知人諸君の類焼を聞きては、深く心を傷しめざるをえない。されども焦眉の急に對しては天下の仁人の應急策が講せられつゝあると想像して、たゞ將來の大火を防禦する方法について愚見をのべてみたい。火事は天災でない。暴風や、洪水や、落雷や、地震や、海嘯と同類のものでない。勿論天災が原因となりて火事を生ることはあらず。又これを助長するこ

とがある。しかしこの度の火災の原因は全く人爲的である。即ち一家族の粗忽が大都市の大損害を招くに至つたのである。嘗て函館の大火に於ても同様な原因が存してゐたと思ふ。日本のごとき木造の家屋櫛比する所に於ては各家各人が火に對する責任を一層痛切に感じて、出來得る丈け粗忽を生せぬ様注意することが必要である。社會は一種の連帶責任の組合である。殊に大會に於て然りである。火事のみではない、風教のこと、疫病のこと、皆然らざるはない。然るに日本に於てはこの方面の社會教育は十分に行き届いて居らぬ。これは宗教家、教育家、行政官等の特別に注意すべきことと考ふ。即ち社會といひ、國家といひ、人類といひ、皆これ一種のソリダリーター(共同組合)にして、各員は全體に對する責任があることを深く感ずる様に教育することが大切である。勿論かゝる教育のみでは火災を防ぐことは出來ないが幾分なりともこれを少くし得る見込がある。余は之を道德的防火法と稱したい。

二、建築上の防火法

道德的防火はいふべくして十分に行ふことは困難である。そこで建築上の防火法が必要となる。日本の建築には一種の長所のあるは疑ふへからざることであるが、同時に幾多の缺點あることも事實である。木造なるが故に雅致あるも、耐火的ならず、寧ろ一種の燃料となる傾向がある。地震の頻繁なるは普通の煉瓦家屋の建造を許さぬかも知れない、又經濟的困難がこれに伴ふは言ふまでもない。やむを得ずんば土造の家屋に多くの窓を設けて和洋折衷の建築を試みることである。これにも經濟的困難があるとすれば、多くの防火線を新設するより外に工夫はないかも知れぬ。とにかく財力ある罹災者は模範的建築に指を染められたいものである。或る西洋の學者は歐洲アリアン民族に個人主義が發達したとを木造家屋に歸してゐる。現今の歐洲人の先祖が猶移住の状態にありたる時、彼等は石造煉瓦の建築法を知らず、森林に材料を

仰いで木造建築を行つた。すれば火災の危険が多い。よつて各家屋は互に著しき距離をとつて建造された。このために一家は一城の觀を呈して、一家一家の獨立心を養成せしめたといふのである。一説として面白い見解である。然るに日本では木造の家屋軒を並べて、毫も怪まざるは呑氣も甚しいものである。一友人の下宿の女主人は大阪大火の電報を讀みて、質して曰く、一戸平均の損害高は一磅位ですかと。その間ひや甚だ失禮であるが、一戸一磅位しか要せざる堀立小屋にあらざれば一萬數千戸の類焼を生ずる道理がないと、その女主人は考へたのである。海には艘艦巨艦を浮ぶる日本が、陸にはマツチ箱の様な所謂人形の家を並べてゐるは醜態も甚しい。過渡時代の日本はあらゆる方面に人物を要するが、建築學の大家の出現は吾人の望んでやむ能はざる所である。

三、水の利用法

英國の各新聞は大阪大火の電報を發表すると同時に、大阪は日本のツエニスであるとの割註を入れたものもあつた。水道の設備十分ならざるにもせよ、大阪市當局者が消防用として淀河を利用する方法を講じなかつたのは千慮の一失である。淀河沿岸の大都會が二十四時間の炎上を實現したるは英國人などの理解に苦しむ點である。この事は東京朝日の社説にもあつた。即ち大阪市が蒸氣唧筒据付船を用意しなかつた事は大なる手ぬかりである。淀河の水量は常に大阪防火の大資本でなければならぬ。さて英國協會の第三回大會が數日前よりカナダのウイニペッグで開かれてあるが、ケンブリッジ大學のトンプソン教授は會長として演説をなしたが、物理電氣學者として堂々たる言説をなしたので、世間の注目する所となつた。彼は石炭消耗の時機の切迫を悲觀するの愚を笑つて曰く、『吾人は地上ありて吾人自身の資源に基きて生活しつゝあるにあらざるを記憶しなければならぬ。吾人は一瞬時といへども太

陽より得る所のものに服従せざるをえず、而してこの贈物はエーテルによりて吾人に傳達せらる。晝夜の別、春秋のけぢめはいふまでもなく、地球上一切の活動の源泉は太陽のエーテルである。そのものたるや、或は石炭、或は瀧、或は食物となりて吾人に與へらる。ラングレーの計算によれば、晴朗の空より高度熱の太陽の吾人に送る熱は一エーカー毎に約七千馬力の電力を施すにひとしいは、太陽の恩恵また大ならずや。石炭缺乏の時は太陽の力を利用する術が講せらるゝであらう。かゝる曉には産業の中心は熱沙燦灼たるサハラ沙漠に轉ずることなしといふべからず云々。大阪市の淀河に對する關係は地球が太陽に有するそれに比しても差支がないだらう。大阪市民は百般の事業に此水を利用することを忘れてはならぬ。而して消防用としてこれを活用するを怠る時は、此度のごとき大不幸を生ずるのである。吾人は市民諸君がこの度の災を轉じて幸となす底の覺悟を懷かれんことをのぞむ。戦後

疲弊の日本の財界は、遠方よりみると殊によく解る。この時にあたりて人爲的に災を招ぎて貧乏の上塗りをすることがごときことは大に慎まねばならぬ。地震國の日本は責めて火事に對する豫防法を講ぜられたい。大阪市の各教會が折々社會教育の講演會を開いて、この種の警醒を與へられんことをのぞむ。

僕は數年前一度大阪の地を踏んだのみであるが、豊太閤の偉業の地として、又日本産業の心臓として同市の隆盛を祈るの念は常に消えない。願くば官吏市民相提携して、將來の繁昌のため大英斷あらんことを冀ふ。

(四十二年八月三十日記)

收穫感謝祭

僕が英國に到着したのは昨年九月の末で、月日の立のは早いもの、もう満一ヶ年を過ぎた。そこで、どうやら此國の年中行事にも通じたと申すこと

も出来る。此度は收穫感謝祭のことを書こう。

○

秋は收穫の時である。春蒔いた種の實なとる時である。花の美が果の味となる時である。勞働の報酬は此季に於て如何に豊かなるよ。因果律はげにみじくもその神秘を啓示するよ。怠情なるものは此季節を悲しともみよ。勤勉なる者にとりては此季節ほど嬉しき時あらじ。僕は幸に農村に生れた。御刈上げの餅振舞や、向林の栗を拾ひ、裏島の芋を掘りて、名月様に捧げもし、一家團樂して月影のさしこむ椽側に栗をむき、煮芋に箸を立て、青豆をはじきなどして語り明かしたる昔が忘れられない。僕は十一歳の秋に村より遠からぬ仙臺に送られて十年を學窓に費し、更に十たびの星霜を東京の活舞臺に過さし、今は異邦の人にまじりて、霽多き空に覺束かなき月光を仰ぐ。御刈上げの餅をしたゝかに好み給ひし祖父も、芋を掘り、栗をうで給ひし祖母も既に此

世の人々にあらず、かゝる祝ひの折にはなくてはならぬ母も天上の人となり給うた。されど思ひ出多きは歡樂多き田舎の收穫時なるかな。

○

僕はかくの如くにして天成の田舎者である。僕の聲音も、肥軀も、吞氣も皆田舎者たるが故の特權である。されば僕は常に天真を愛し、單純を求むるあこがれがある。人爲の美より自然の美を慕ふ情がやまれぬ。東京の生活が常に自然美の豊かなる小石川の奥を離るゝことが出来なかつたもこのためである。されど東京生活に於て僕の快心に堪えぬは、秋に入りて本郷神田邊の水菓子屋の前を通ることであつた。水々しい梨や、瑠璃色にまたは瑠璃色の葡萄や、緋に、紅に、黄な數々の柿や、蜜柑や、橙や、山とばかり積み飾られたる光景は何といふ美はしさであらう。僕は水菓子屋を通るごとに秋の恵み、自然のなさけ、大能の愛をこと新しく感ぜざることがなかつた。

海老名牧師が猶ロンドンに滞在せられたる頃である。昨年十月の初めの程である。一日打連れ見物に出かけ、午後十時近く、ハイド公園附近の下宿屋に歸る途中、會衆派の小會堂の窓より樂しそうな光が洩れ來るので、好奇心に驅られて、のぞき見したき氣がひら／＼と起つて來た。靜に戸を押すと、あゝ何たる美觀ぞ。小さい堂内は野花青草を以て飾られ、講壇の前の大きな机のうへに、野菜や果物が意匠を凝して積まれてある。その色の配合の美はしきことよ、見事なることよ。暫しは我を忘れて眺めてゐると、異邦の人を珍しがりて近寄り來りたる執事らしい人に聞けば、今しがた收穫感謝祭を終りたるばかりであるといふ。なる程會衆は散じた後らしく、残れる人々は指折り數ふる位である。僕は東京の水菓子屋の店頭に於て起した感想よりも更に深く、眞なる或る思ひを懐くを禁ずることが出來なくて、教會の老牧師に丁寧

に會釋して別れた。何となく、一時なりとも、煉瓦くさい、電氣くさい、馬車くさい、何事も人間くさい、まことにうるさく、面倒くさい大都會より千古かはらぬ田舎の自然に運びかへされた様な感じがして、この夜は久し振りに夢は東北の一寒村に天かけりしたことであつた。

先月の四日、雨のしよぼ降る午後であつた。カーペンター先生に誘はれ、例の無蓋馬車に乗り、先生自ら手綱をとりて、オックスフォードの南郊に出懸けた。丁度東京を出立した一周年にあたるので感慨無量で、道すがら僕が一年間に得たる賜について先生に細やかに物語りをした。雨はやまぬが折角乗り出したので、帽子の雫をうち拂ひ／＼進んで行つた。やがて市街を離れて、田舎道にさしかゝる。右も左も皆麥の收穫の名残りだ。日本の藁葺の百姓家の様な格好のは麥の堆積である。小雨を恐れず、農夫達は蒸氣仕掛けの器械

にて麥の穂をふいてゐる。刈入れの済んだ様な島にさしかゝると、馬蹄の音に驚いてや、落穂をあさつてゐた百千の群鴉がバット飛びあがる。先生は僕に日本の收穫時の模様などを聞かれる。僕は得意になつて黄金色の秋の田の詩趣を説く。先生はうなづき／＼傾聴して下さる。そのむかし内亂時代に豪の者として名高いハンブデンが負傷したといふ、十五世紀式の古橋を渡り、テムム河畔のニイナム村を過ぎり、傘かとはかり道を掩ふ榆や柏の枝振りを賞しつゝ、夕方、學院に歸つた。ピツシヨリと濡れたれども近郊の收穫の景色を目撃したのは儲物であつた。

こえて、六日、七日の月火兩日となると、當地に名高い市フェアが開かれた。聖ヂヤイルス寺院の保護のもとに催さるゝので、聖ヂヤイルス市といふ。中世紀まで、市は年中行事の大事件であつたそうなる。麥の收穫で金をえたる百姓達が年

に一度の買物をするために集つたものだから。今は商業の發達につれて、かゝる制度は不必要となつたのであるが、萬事に古風な、保守的な英國民は矢張この市を廢さない。しかも眞面目腐つた大學市にこの田舎めける御祭が開かるゝのはまことに面白い對照である。丁度休暇中として、いたづら好きの大學生の邪魔もないので、商人も、農夫も、老幼男女も集つて、無邪氣な二日の樂しみをする。ロンドンからは特別汽車が仕立てられて、わざ／＼見物に来る物好きも少くはない。六日の早曉より見世物師は聖ヂヤイルス寺院前の大通りに集つて来る。僕も徒然のなぐさめに同じ日の午後一寸出かけてみたが、大した混雜だ。廣小路の西側に色々な見世物がある。金碧燦爛たるいかめしい假小屋は活動寫眞である。いづれも際物の「獨乙侵入」が名題である。ブランコがある。老婦人達まで乗つて面白がつてゐる。蒸氣でまはる木馬がある、子供ばかりと思へば中年老年の婦人まで落ちつき拂つて乗つてゐる。同じ仕掛

けの自働車にも田舎娘などが大威張で乗り込んでゐる。拳術の興行物もある。御菓子屋もある。安ピカもの、頸飾や、腕飾りなどを賣るものもある。流行唄をうるものもある。誰れの顔をたたいともよいといふ紙幣を賣るものがある。それはく大した人ごみだ。日本の都會の招魂祭や、町村の鎮守の御祭りの體裁のよいだけだ。人情は何處も同じとみゆる。見世物小屋より響く樂隊の音は耳を聳するばかり、満都の大學者先生達もこれには閉口されたに違ひがない。

○

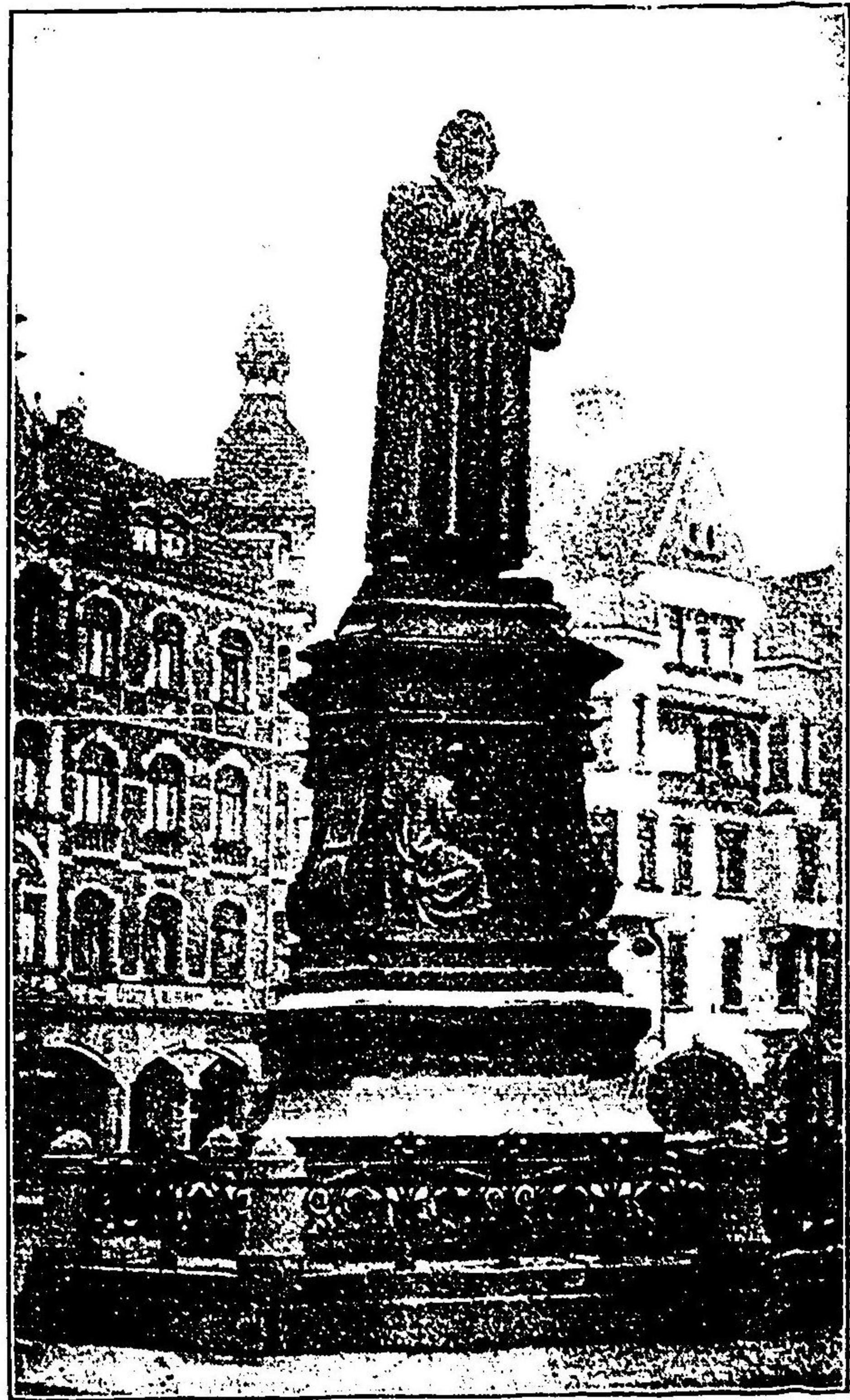
九月二十六日の日曜から本月三日のそれまでの間に當地の諸教會は思ひ思ひに感謝祭を行つた。收穫感謝の特別説教がある。いづれも花や、果物や、五穀類で堂内が飾られる。午後には子供達のために花の集りをしたものもある。四部合唱の歌がある。祭壇の捧物は貧民への贈物となるのだ。何れの教會の感

謝祭も少し時間を後れた人は這入りかねた程の大入りであつた。されどオックスフォードは矢張學者町である。従つて、感謝祭もやゝ形式にのみ流れる傾向がないとも限らぬ。しかし本場の田舎に行くと感じの情趣まことに掬すべきものがあるといふことだ。スミスがバツターを持つて来る。ジョンが大きなパンを持つて来る。梨を持つて来る婆さんがある。花を持つて来る娘がある。かくして彼等の手によりて、然り彼等自身の勞働の結果として、感謝の捧物が祭壇に積まれるのである。人間には娛樂を欲する本能がある。これを聖め、高むるのが教會なる組式の義務とすれば、英國の基督教はとにかく國民の日常生活と離るべからざるものとなつて了つたのである。

○

近頃の一雑誌を讀むと、米國の村落で、牧師と農民との關係がやうとくなる傾きがある。それで或卓見家があつて、田舎の牧師は教會の傍ら、最新

の科學に基ける耕作をやり、これを農民に教うるようにすると、自然と靈的の關係がつくであらう、最初の一二年は無智の百姓達は物好きな牧師を馬鹿にするだらうが、同一面積の土地より多額の收穫を得る段となれば勢ひ教を乞ふ様になるであらうと注意をしてゐる。近代の思想は人本主義である。人生そのものと離れては如何なる宗教も、學説も、成立することが六ヶしくなつた。日本では都會の教會は相應に發達してゐるが、町村のは概して振はない様だ。これは基督教が新宗教であるといふ損な位置にあるばかりでなく、田舎の生活と交渉する點が少ないからでなからうか。教會をして人生と關係あらしめよ。收穫感謝祭のごときは基督教化するに於て最も都合よき者であらう。猶太に於ては四月の大麥收穫に引きつゞき小麥のそれがあり、葡萄のそれに至つて全國の歡喜その極に達したといふことは舊約書の記事によりて明かである。日本にも神嘗祭あり、新嘗祭あるが、單に宮中の儀式にとどまりて



像 謝ルテール市ハナセイア逸獨



像銅ルテール市ハナセイア逸獨

の科學に生ける耕作をせり、これを農民に教ふるよらにすると、自然と農的の關係がつくであらう。最初の二三年は無智の百姓達は物好きな牧師と馬鹿にするたうが、同一面積の土地より多額の收穫を得る段となれば、其の教を乞ふ様になるであらうと注意をしてゐる。近代の思想は人本主義である。人生そのものと離れては如何なる宗教も學說も成立することが出来なく、其のた。日本では都會の教會は相應に發達してゐるが、町村のは概して振はなぬ。これは基督教が新宗教であるといふ損な位置にあるばかりでなく、田舎の生活と交渉する點が少なからずからうか。教會をして人生と關係あらしめよ。收穫感謝祭のときは基督教化するに於て最も都合よき者であらう。週末に於ては四月の大麥收穫に引きつゝ、小麥のそれがあり、葡萄のことに至つて全國の歡喜の極に達したといふことは舊約書の記事によつて明かである。日本にも神嘗祭あり、新嘗祭あるが、單に宮中の儀式にとどまりて

國民生活とは何等の關係がない様だ。基督教界の先覺者にとりてはまことに含蓋深き宿題の一つである。(十月六日記)

研究的態度と宗派根性の脱却

宣教五十年祝會も目度出終りを告げた。僕は萬里の異郷にありて親しくその盛況を看ること能はざりしを憾みとする。唯二三の雜誌を通じてほのかにその壯觀を想ひやるのである。組合教會の總會の記事の掲載されたる基督教世界は昨夕配達された。僕は夕食後急いで寄宿舎の三階の一室に歸り、楽しい火爐の傍にて一氣に讀み終つた。讀み終りて諸兄弟の健康を祝し、道のため、義のため、大靈のために常に奮闘されつゝあることを感謝するものである。同時に種々の感想が自然に胸中に浮んで來る。兩會共に何だか物足らぬ感を僕に與ふるのみである。勿論雜誌の記事を通しての判断であれば、圖星を外

れたる點が多いだらうが、他山の石また幾分の参考とならぬこともあるまい。若し夫れ見當違ひの點あらば偏に讀者の海恕を仰ぐのみである。

僕は宣教五十年祝會に遺憾とするは諸講演者が主として植村氏の所謂「手柄の展覽會」に終りて、現在及び將來に對して基督教根本真理の關係を宣明しなかつたことを残念に思はざるをえない。「基督教とは何ぞや」といふ平凡なる問題は毎年繰り返へされなければならぬ問題である。蓋し科學、哲學の進歩に伴うて有神論の内容が進化しつゝあるからである。又社會問題、國際問題は年と共に複雑になつて來るからである。而してナザレのイエスの位置は猶明白でない。宗教の自由研究を目的とするヒツパルト雑誌はこの二三年間の發行部數を倍加し、今や世界各國に讀者を有するに至つた。かゝる事が既に見逃がすべからざる現象たると共に、數ヶ月以前、會衆派の一牧師にして勞働黨創設の隠れたる大黒柱と目せらるゝローバールト氏によりて同雜

誌上に提出せられた「イエスカ、クリストか」といふ問題が直ちに歐米の神學界、思想界に大波動を誘起したるは如何なる理由であるか。これは必ずしも提出者の論文に幾多の先人未發の真理があつた爲めでない。寧ろ現代の宗教家が胸中に秘めたる大疑團に對して火蓋を切つた迄である。而してヒツパルト雜誌が一大號外を發行して舊新教各派の代表的意見を公にするに至つた。舊教は英國近代主義モダニズムの代表者故ファアザー・テレルによりて、英國々教會はサウスワイク監督、ガーデナー教授、カノン、スコット、ホルランド等により、會衆派はガーツキー博士によりて、新神學はカンベル氏によりて、ユニテリアニズムはセームス・ドラモンド博士、カーペンター博士等々によりて代表せられた。かゝる珍しい對照と取り組みとは二三年前迄は殆んど不可能の事と思はれてゐたのである。獨逸神學はシュミード博士、ワイテル教授によりて有力なる貢獻をなした。以て時運の推移を知るべきである。日

本の基督教會は自己の研究と經驗とによりてイエス觀を發表しなければならぬ。それを發表せず、漫然として傳道を企つるは主將なくして戰爭を計畫することゝ類であるまいか。日本に於ても思ひ切つて銘々のイエス觀を發表したならばよいであらう。而してこの種の宣明は五十年祝會に於ても、組合教會の東京總會に於ても、試みられなかつた様である。神學は一種の科學である。日月と共に進歩しつゝあるものである。是等の肝要なる問題を逸し、ボンヤリとして一致協同を囁するは猶ほ虎を畫いて睛を點せざる驢りを免かれまい。これに次いで僕の遺憾に思ふは兩會共に緊急なる社會問題を決議し、以て將來の活動の舞臺を擴張せられなかつたことである。基督者の理想の社會に照して現代の日本の社會は何を缺いてゐるか。これは單に禁酒問題位で済むものでない。教育問題殊に女子教育の問題、國民健康問題、勞働時間の問題、及び對韓問題のごとき、重大なる問題が開却されてゐる。僕は日本の基督教會は

是等の諸問題に對して確乎たる意見を發表して國民を指導し、刺戟する必要があると思ふ。的のない所に矢は放たれない。現代の日本は如何なる點に於て救済を要しつゝあるか。これを研究せられなかつたのは誠に遺憾千萬のことである。

秋は英國諸教會の活動期で、各派の年會は何れも現代の大問題を研究した。ウエールス・スウェーデンにて開催されたる英國々教會年會はカンターベリー大監督の靈的説教を重とし、重なる諸監督の注目すべき説教があつた。殊に社會主義に就いて討論し、「ポール神學」、「近代の心理學的研究と基督教との關係」(クリスチャンサイエンス)、「貧民法案の改正」、「教會に於ける婦人の活動」等の題目について、知名の學者及牧師の論文が讀まれた。續いて討論のあつたとは云うまでもない。序に申せば目星しい論文の後に討論が屹度ある。これは英國一般の風である。英國々教會は依然として一大教派である。誰を英帝

國に稱してゐるだけ、非教會に譲らず多くの人物を有してゐる。會衆派の年會は北英のシエップフィールド市に開かれた。年會議長ジエ・デイ・ジョンズ氏は「基督、教會、及び聖書」と題し會衆派の信仰を明かにしカルヴィンはこれ大神學者及び社會改良家の兩方面より各々ガルツウィー博士とチエッサマン牧師によりて論ぜられ、「モダルニズム」はフォルサイス博士に手酷く攻撃せられ、「クリスチアン・サイエンス」はホルトン博士によりて縦横に批評せられた。その他、教會生活の諸問題、英獨對抗問題等も討論より逸せらるゝことが出来なかつた。又同會の矯風會は昨年上院が酒税法案を拒絶したことを憤り、現に上院の手にある幾多社會政策實行問題に對して貴族の反省を促し、大藏尙書の豫算案に含まれたる酒類營業税を是認する旨を決議した。決議案の終りに「この決議案の寫しは總理大臣、大藏尙書、ランシダウン侯爵、國會議員バルフォア氏及びシエップフィールド市選出の代議士に送附す」と斷

つてある。中々振つた者である。流石は大英の會衆派、非國教會の中堅たるに耻ぢない。社會主義と新神學問題とは昨秋の大會に議せられたから、此度の大會にはあらはれなかつた。又ロンドンの市會堂に開かれたる新神學派、即ち「進歩同盟」の第二大會に於ては文豪バーナード・ショウやホール・ケインの痛快なる社會主義的講演があつた上に、ロイド・トマス氏の「近世生活に於けるイエス」、オルチャード氏の「罪惡の新しき倫理的及び社會的意義」、ロンダ・ウイリアム氏の「人類のうちに宿るクリスト」等なる時代の要求を充實せる論文が讀まれたる上、ファビアン協會長シッドニー、ウエップ氏は貧民法案調査會の少數黨報告書について講演し、ゲエスト博士は學校兒童の醫療法について研究を公にした。キャンベル氏の大説教はまた時代人心の疑惑の根本に深いさぐりを入れてある。少し古いことを加ふればこの春ポールトン市に開かれたるユニテリアン及び進歩派諸教會の三年毎の大會にては多くの

純宗教的講演の外に、グラスゴー大學倫理學教授ヘンリー・ジョンズ氏は悪（エーデル）の問題に就て形上學的にして同時に通俗なる論文を讀まれ、ロイド・トマス牧師は「モダルニズムの意義」を華麗なる文辭と同情ある觀察とによりて闡明した。貧民法案は多くの婦人辯士までを加へて討議された。

言ふ勿れ、英國の基督教は惰性によりて維持せらるゝと。指導者の苦心慘澹たることは等の大會の順序書によりて見らるべきにあらずや。基督教國に於てさへ、既成の勢力を失はざらんためにかゝる工夫を要す。然るを日本の如き非基督教國に於て「十年前の旅行案内」を便りにして千篇一律の説教をなす。されば教勢は國民の冷淡なる罪のみでない。世界の進歩的思想に後れたる教會その物の罪である。あゝ何ぞ容易に累を人に假することが出來やうぞ。

更に僕の不服がある。それは五十年祝會に於て諸先輩が各自所屬の宗派の

無意義なることを告白されなかつたことである。基督教の歴史を研究すれば、いづれの宗派にも特有の意義と歴史的必要とがある。それ故に僕は如何なる宗派にも同情を寄する。同時に現在の日本に於てあらゆる宗派の名目上の區別は無意義である。組合教會の機關雜誌に於て申すはやゝ不穩當であるが、日本では組合などいふ變な名目はいらぬ。メソヂスト、浸禮も然りである。日本に於ける新教各派は重に英米に發したものである。英米に於てはそれだけの理由があつて起つたものであるが、その理由のない日本に名目まで移植せなければならぬ道理が何處にあるか。僕は昨秋以來、諸宗派の人物に接し、その事業を視察し、その家庭に出入し、その説教講演に出席してみたらぬことがあらうぞ。英國の教會は純然たる意味に於ける改革教會でない。舊新兩派の混血兒の類である。長短共にこゝに存する。そこで大陸の純乎た

る新教的精神の感化を受けたるものが分離して非國教なるものを作つた。然るに彼等が仰いだルーテル、ヅウイングリー、カルヴウインは一代の人傑であつたが、彼等が事業を完成したる後に、歴史的研究や、人類學や、古物學の研究が長足の進歩をした。批評的精神は神が人類に與へ給ふたる貴き啓示である。多くの非國教各派はこの武器の發明以前に現出したものである。其故に現在の科學的宗教的、社會的見地よりすればいつれの教會にも長短兩所があることゝなつたのである。

然るに狭小なる、又基督教からみれば、新しい日本に何のかんのと宗派を傳道しつゝあるは僕の理解することの出來ぬ點である。今や比較宗教の進歩の結果として東西の大宗教互に握手せんとするまで進んだのに、基督教の内部にて、やれ組合だとか、日基だとか、メソヂストだとか、聖公會だとか、浸禮だとか、各々繩張をしてゐるは一種の滑稽劇である。この滑稽劇を自覺す

るまでに日本の基督教會の研究心と信仰とが追つ付くまでは、大した發展は出來まいと考へらるゝ。「新人」十月號の社説は宗派の存在を是認してゐるが、僕は全く不賛成である。宗派の撲滅せらるゝまでは基督教は日本の大宗教となれまい。何故なればこれを果すためには各派々々が先入の思想を排し、眞理に忠實なる態度を以て一途に公平無私の研究を積まなければならぬからである。

日本人が基督教に最後の判断を下す時には單に歐米の學者専門家の指導に満足せず、數千年間傳來したる人種的、民族的意識の法廷に之を持ち出す必要があらう。維新の大改革には大政奉還といふ大膽な思ひ切りのよい事をした日本人でないか。英吉利人などには眞似の出來ぬ心事である。基督者は先づこれを眞似ねばならぬ。舊教徒も希臘舊教徒も、新教各派も眞理の前に己れを謙遜ならしめよ。而して宗派を奉還してイエスの心に立ち返らしめよ。

文學者さへ一言一句が心臓の響きでなければならぬといふてゐる。靈を傳ふる基督教者は願く無智と、頑冥と、得意と、情實とより脱して、新しい兄弟姉妹の一團を作らうぢやないか。この新しい團體と協力する外國傳道會社あらば協力すべし。然らざれば協力は早いと思ふ。洒落は日本民族の長所である。このために五六年間教勞が振興せずとも心配するに及ぶまい。吾人は日本將來のために純眞の靈種を植えなければならぬのである。

もう一言申したいことがある。それは牧野牧師の通信にも、多くの牧師諸氏の組合教會の大會席上の感話にも「聖書的」といふ文句がみゆることである。これも意味を吟味しなければならぬ。單に聖書の文句さへ引用さへすれば、富山の萬金丹の如く、さゝ目があるといふことはあるまいと思ふ。聖書は猶太民族の發達に伴うて解釋せらるべきもの、而して猶太民族の歴史はバビロン、アッシリア、エヂプトの歴史的影響を外にして解釋することが出来ぬ。イ

エスの救主自覺は猶太の世界終末觀より解釋せねばならぬ。而して猶太の世界終末觀は印度、波斯、埃及、希臘等のそれと關係してゐる。要するにバビロンの古代文學に源泉を有してゐるらしい。ポロの神説は當時小亞細、希臘、羅馬等に行はれたに俗間信仰や哲學の背景を外にして解釋することが出来ない。かくて歴史的統一ある一大靈的實驗の寶庫としての意味に於て聖書的といふもよし、單に聖書を矢鱈に讀み上ぐるを以て信仰を貴ぶ條件とせらるゝに於ては反對せざるをえない。

要するに近世の科學思想や文藝界の自然主義や、哲學界の人本主義や、直接間接に、吾人の靈魂に戰を挑みつゝあるのである。而して日本の自然主義は漸く進んで形而上學的となり、内省的となつた。これ慥かに同主義の一進境である。願くは吾人をして深く歴史の流れを酌み、哲學の奥にすゝみ、靈魂の囁を聞かしめよ。徒らに先入の思想の奴隸となりて、靈魂の權威を放抛

することなからしめよ。(四十二年十一月十二日記す)

クリスマス 前

小雪であつたが、先達一寸降つた。折々寒い風がヒューと煙突を吹き鳴らす。店々の飾りつけが一段の美を添える。各雑誌は競争してクリスマス號の内容と景物とを誇る。學友の夢は夜なく戀しき家庭に飛んでゐるだろう。サンタクロースと、白雪と、七面鳥と、唄と、クリスマストリーとの祝ひも近いて来る。何處となくクリスマススの空となり、何となくクリスマススの匂ひがする。今年も昨年のように書卷を侶としてこの祭りを迎ふると思ふ。淋しいだらうと慰めて呉れる人々も多いが、チットモ淋しくはない。荒漠無人の境に潜んだ聖者も少くないではないか。しかるを世界最大の學府にありて、遠く偉人を仰ぎ、近く大國民の活動をみる。感謝すべきことを多けれ、何をか

啣つべき。遙かに教友諸君の健康をいのる。(四十二年十一月二十九日夜)

オックスフォード市公會堂に於けるカルゾン卿 の伊藤公追悼演説

十月二十六日の夕であつた。僕等晚餐の折、一教授が伊藤公がハルビンにて暗殺されたさうだと出し抜に僕に告げられた。僕は伊藤公が同地に赴かれたとすらも承知せぬので、何かの誤聞であらうと推量した。しかし色々の事を想像して、それからそれと取り止めもないことを考へた。食時が済むや否や、僕は校門を出て、ブロード町へ志した。夕刊新聞を買ふためである。雨がピシヨ〜と降り注いで人通が少い。丁度物の陰に潜んでゐる新聞賣の小僧を見付けて、奪ふがごとく一枚を求めて、街燈の光にてらしみればこほともいかに第一ページに伊藤公の大禮服の寫眞が出で、一號活字にて暗殺の見

出しがある。直に寄宿舎に歸らうと思つたが、手近の市公會堂にて國民兵役同盟のオックスフォード支部年會があつて、珍らしく滞在中の大學總長カルゾン卿の司會にて、南阿戰爭に勇名を轟かしたるホワイト陸軍大將の演説があることを思ひ出し、堂内の電燈にて悲報を一讀せんと駆けつけた。開會の八時には未だ十分程間があるので、中央の一脚に腰を下ろした。胸を躍らせつゝ故國の一大凶報を読み下した。聽て僕の後には日本の和歌俳句等を獨學して英譯しつゝある篤志な一紳士が来る。僕は新聞を見せると、これはしたりと深厚なる同情の詞をくれる。程なくして左の階上には輕裝せる少年斥候隊（ホイイスカウト）の一群が手に手に棒を提げて凜々しく陣取つた。右の階上には美裝せる英國教會少年共働隊が繰出した。廣い堂は空席を見ない程になる。するといかめしく禮服を着けたる市長の先導にて、エル、エル、デイの制服を被れるカルゾン卿、副總長ワッレン博士、銀髮霜の如きホワイト老將や、各

學院長達や、市會議員や、三四の淑女達が續いた。一同は正面の壇上の設けの席に着いた。拍手は堂を揺がした。少年斥候隊はてんでの棒もで床も抜けよとばかりと叩きうつた。壯觀を極めた。カルゾン卿は廣額隆鼻、輪廓のキツパリシタ威容を備へてゐる。嘗て印度の總督として大英斷を以てベンガル州兩分を斷行した面魂が隠すことは出来ぬ。その常陸山然たる重みある體軀を起して開會を告ぐると、一淑女が起立して報告を朗讀する。それが終ると愈卿の演説である。大學總長でありながら滅多にオックスフォードに来ることなき偉人であれば、聽衆は堅睡を呑んで鳴りを静めた。何ぞ計らん、同卿は伊藤公の追悼演説をやり出した。静かな深みある聲にてゆる／＼語りいでられた。

『今夕のは公の會合であれば、夕刊諸新聞にて傳へられたる一大凶事、即ち近代日本の最大なる政治家伊藤公が刺客の手に斃れられたる事に就て、常會

に入るに先じて一言するを許されたい。殊に聴衆中に日本の紳士を見受くるを以て猶更かく致したいのである。吾等は友情と、同盟とで、同國民と結び付けられてゐる。余自身は永年の間この大政治家と相知るの榮を得た。滿洲に於て暗殺せられたる伊藤公は、實に、近代日本の最大政治家である。四十年前には、日本の維新を指導したる花々しい改革者の一人であつた。是等の人々の力にて日本は世界の文明諸國の第一列に進むことが出来たのである。余は親しく公が四十年前に無名の一青年として、帆船の一水夫に變裝して、此國に來りたる巨細の事情を聞いたとがある。公は此國の制度文明を觀察して、將來の光榮ある日本の改革に資せられたのである(大拍手)。而て今や伊藤公は韓國の刺客の刃の下に犠牲となられたのである。『僕は豫期せざる追悼演説を聴いて、耳を澄まして、此力ある語を聞洩らすまいと努めた。カルゾン卿は嘗て印度に於て伊藤公と同じ地位に立つたのである。他國民を御する

の困難は卿の實驗した所である。同卿よりかゝる同情ある詞を聞くは怪しむに足らぬのである。卿は更に言を進められた。

『日本は、最近數年間、我國民が成功か、不成功か、——余は成功と思ふが——印度の大領土に於て試みつゝある同一事業を韓國に試みつゝあつた。東洋の大國民を馴服するは我等異人種にとつて困難であるが、韓國に於て日本は等しく困難を感じてゐる。而して韓國民の和解に全力を捧げて、日清戰爭以後避くべからざるものとなりたる日本の支配を韓國に設立せんとしたる、此顯著なる政治家は、彼に先じて多くの善人のなしたる如く、刺客の武器の下に斃れたのである。而してこの刺客は祖國のために如何なる事をなしたるかを悟らぬであらう。(拍手)』

カルゾン卿の追悼の辭は簡單にして、眞率であるが、大に力のある演説であつた。同卿は直は當夜の本問題に入つた。周圍の男女がチヨイ／＼と僕の方を

見向いて眼で同情する。僕はそれとなく新聞を廻してやつたが、新聞は近くの椅子から椅子へと飛んだ。僕は嘗て法科大学と、高等商業学校との講堂にて、謹聴したる伊藤公の演説を思ひ出したり、去年の夏の夜に停車時間に散歩したるハルピンの停車場の光景などを記憶の奥から呼び戻した。韓國問題が將來ますます日本の重大問題となるべきことを推量したり、伊藤公の多事なりし一生涯を回顧したり、また殉國の死を遂げられて日本英雄傳中の一大光耀となられたなどと思うて、カルゾン卿の雄辯も耳にはいらぬ。ホワイト將軍の國防問題に關する演説は時々警句があつたり、大抱負がほの見えたりしたが、僕の心は日本から韓國に、韓國から北滿洲に、それから東京へと飛び廻つてゐるから、これ以て一向耳にはいらぬ。

外にも數番の短い演説があつて、この珍らしい集會が散じた。ホワイト將軍への感謝の提出があつた時などは、大した喝采であつた。僕は興味を以て

英國に於ける國防熱の發現を目撃した。時に千名近い聴衆中、日本人は僕一人である。カルゾン卿の好意を貰ひ逃げすることは出来ぬと思ひ、一行が講壇を降りて來るを待ち受け、刺を通じ、日本人として祖國の偉人に對する同情の詞を謝したるに、同卿は大に満足なりとて、巨手を以て僕の手を緊握し、伊藤公の追懷談を手短に物語られた。僕は同卿の好意を東京の新聞に報じて國民に頌えんと言へば、然るべく御依頼すといふて、やつと僕の手を放された。僕は一人悄然として雨と暗との中に歩み出した。(四十二年十一月)

オックスフォード大學に於ける日本語の講座

オックスフォード大學に於ては從來東洋各國語の研究を怠りはしなかつたが、日本語の講座を缺いてゐた。併しこれは當大學のみの缺點でない。大英帝國の何れの大學にもこの講座は存在しなかつた。日本では英語が中等教育

以上の程度の諸學校の必修科となつてゐるのに、同盟國の英帝國が之に何等の應酬する所ないのは日本人から見れば不平の種でないでもなかつた。しかし向の理由も聞いてやらねばならない。日本語は非常に複雑で六かしい。而して其れを通じて學び得らるるものは極めて少い。いはゞ骨折損となるといふのである。残念ながら日本は大宗敎家、大哲學者が出なかつた爲に日本語は歐米に於て比較的冷遇されてゐるのだ。然るに日露戰爭以後、日本の勃興は東洋の政治及び貿易に重大なる意味を來たした。その結果として、オックスフォード大學が英帝國內の諸大學に先鞭をつけて、これがために基金を募集したのは昨年のことであつた。總長カルゾン卿はこのために巨額の寄附金をされて愈講座は新設されるとに内定した。これは昨年の七月中、英國より日本に電報があつたと記憶してゐる。

次いで來る問題は講師の選擇である。アストン氏のごときは第一に目指さ

れたらしいが、老齡職に堪へずとて辭退されたと聞く。遂に選はジエ、エーチ、ガッピンス氏の頭上に落ちた。同氏は前後三十八年、日韓兩國の領事を職とし、日本語及び文學、歴史に造詣深く、目下續出中の日英字典は言語學上の一大貢獻であると目されてある。副總長ワレン博士はこの問題の解決を以て頗る満足されたらしく、十月初め、慣例によりて大學會議に於てラテン語の式辭を述べられた中に、自分が在職中、日本語の講座を開き得たることを喜ぶといふ言があつた。

さて講師就任式の公開講演は十月廿九日の金曜日、午後四時から當大學隨一の試^{エグゼシエーション}驗^{グループ}學堂の南講堂に開かれた。僕は三四名の日本人と連れ立ちて傍聴に出かけたが、日本人だといふので、今日ばかりは前方の上方に案内された。聴衆は思ふた程に多からず百五十人程であつた。應て副總長ワレン博士が例の愛嬌ある老たる校僕に權標を擔がして、靜々と這入つて、講壇下

の古々しい木製の椅子に腰を掛られた。ガッピンス氏といふは餘程の老人である。瘦形の小造りの人である。廳で副總長は起つて日英同盟のことから日本最近の進歩に言及し、その勃興はさながら流星の天の一方に顯はれたるがごとしと賞し、萬々一再び暗黒の中に葬らるゝことありとしてもその出顯は世界史上の一大事件である、況んや種々なる材料に基いて考察するにこの出顯は一時的ならずして永遠的のものである。又日本國民の勃興は世界の歴史に一個獨特の文明を寄與することである。オックスフォード大學は今日、該國民の言語及び文學に關する講座を開いてその擔當講師ガッピンス氏を諸君に紹介するを光榮とすと結ばれた。五分間位の短い演説ではあるが、有名な古典學者のことゝて、片言隻句苟くもせず、柔かな語のうちに限りなき含蓄がある。副總長の講演は二三度聞いたが、常に清々しい感を與へる。

次でガッピンス氏は老軀を起して、講壇に立たれた。本題に入るに先んじ

て同氏は伊藤公に對して追悼の辭を述べられた。氏は政治家としての公に各方面より短評を下し、伊藤公の成功の秘訣の一は國民の長所、短所、缺點、熱誠、偏見等を熟知し、且至高の度に於て、莊嚴なる愛國心を有したることであると結ばれた。大學の公會に於けること弔詞は實にオックスフォード大學の代表の聲と見ることが出来る。數日前にはカルゾン卿の弔辭あり、また此日の悼詞といひ、異郷にありて母國の凶報に胸を傷むる遊子の情を感むるに足るものがあつた。ガッピンス氏の題は「日本の進歩」で此日は數回に互るべきもの、第一回を演ぜられた。この度は條約締結以前の日本について述べられた。地理、歴史、人情、風俗に至るまで細微に互れる講演である。氏の重なる論點は、第一日本開國當時歐米各邦との關係圓滿ならざりしは皇室と幕府と兩立して法令二途に出でたるがためなると、第二、日本の開國は二百年前までは自由開放たりし門戸を故意的に閉鎖したる後のそれであると、第三、

この時期に於て支那文明の感化はよく國民に普及したりしと、第四、開國當時日本は高度の文明を有したりしとは初期の西洋各國人に認識せられたといふとであつた。

午後五時に講演は拍手のうちに終つた。僕は出席の日本人を代表して、副總長に謝辭を述べたるに、ワッレン博士は貴國語の講座を開いたる精神は余の演説したる通りであれば、貴國民にこの意を通せられたしと叮嚀なる挨拶をされた。又ガッピンス氏にも禮を述べたるに、日本人諸君は何時でも歓迎します、私から御訪ねしてもよしなど、傷みいる程謙遜さるゝので、大に恐縮した。名刺を交換して御別れした。

第二回の公開講演は十一月十一日同講堂に開かれた。同氏は條約締結のこゝと、殊にベルリとの條約締結の事情を語り、千八百五十八年の條約を詳述された。

かくして日本語はやつとこ世界最大の大學の一講座を占むるに至つた。日本語の地位を高むるは將來の日本の宗教家、哲學者、文學者、科學者等の責任である。(四十二年十一月)

英國人の政治的訓練

隨處輿論政治がある。英國は立憲政治の本家本元なるだけ夫丈、輿論政治の盛んなる事は何人も知る所であるが、一朝彼の地に到るあらば猶更其盛んなるに驚く位である。議院に於て、或は市會に於て、かゝる公のものは云はずもがな、例へば、學生の會若くは學者の相談會の如きありても、其議事の教場、食堂、喫煙室野外に開かるゝを問はず、必らず座長が出来る。大抵年齢によりて定むるが、學生は其級の上のものが座長となる事となつて居る。而してこれに本院と命名し、宣言をして、討論の後、議決するのであるが、是は寄宿舎

にて購讀する新聞雜誌を選ぶ際にも必らず行はれ、討論採決する事として、多數の議論に服従するのである。以て如何に輿論政治の盛んなるか、解るであらう。

婦人並に少年の政治思想輿論の盛んなる事以上の如くであるから、其政治思想の發達は年若き子供、或ひは婦女子に迄普及して居るのは、敢て怪しむに足らぬのである。元來英國では憲法上は七年に一度總選舉がある譯だが、大抵四年に一度位の比例で、昨年は一年内に二回あつた。何にしるあの騒ぎであつたのだから、候補者の妻君や、子供の勞ひも亦業晴らしいものだつた。妻子が演說會や討論會へ出席して應援するの外、街道の要所々々でビラを貼付し、或は戸別訪問をしたりして頻りに其夫たり父たる人に聲援して居る。十歳以下の子供でも何の黨が内閣を組織するによりてパンの價が上るか下るか位の事は辨へて居る。貧民窟の子供等迄、此位の事は念頭におき、保守黨の子は保

守黨、自由黨員の子は自由黨と、各其父の屬する政黨の政見政綱を聞き覚えにして、互に議論を戦はしてをると云ふ有様である。若し夫れ投票の結果の發表せらる時の如きは、二時間も三時間も前から、其發表を待ち、市廳前には立錫の餘地なしと云ふ有様である。

政治思想養成の必要。英國に於ける學生の演說會の練習は悉く討論會である。日本の所謂雄辯會の如きものではない。校長が議長となり、教員も學生の中に加はり會場は喫烟室でも講師室でもこれを行ふ事としてある。彼等は此討論會等によりて未來の政治的要素を養ふのであるが、日本に於ても此演說會なるものを討論會にしてほしい。以上は英國に於ける國民の政治的訓練の觀察の大體に過ぬが、日本國民も大に政治的訓練が必要であると思ふ。此政治的訓練なくして立憲政治の發展を望むは、恰も木によりて魚を求むるが如き類で、到底其効果は達し得べきものではない。先づ中學校の學生位から憲法、政

治等をよく理解する様に教育するがよい。學生に政談演説を聞かしむべからずなど、は立憲政治の本旨上愚も亦甚だしと云はねばならぬ。(談)

英國民の常識と其素因

英人の常識を證明せる宗教改革

英國民の常識コンモンセンスの發達せることは世界に於て名高い事實である。今試みに之を證明せんが爲に歴史上の事實を擧ぐれば、宗教改革が先づ以て之を説明して居る。一體十六世紀の宗教改革は獨逸瑞典を中心として歐洲の各所に勃發し、瑞典に於てはカルヴァイン及びツウイングリーを指導者とし、獨逸にてはルーテル及びメラクソン等を中心人物とし、就中最も激烈にして光彩ある者はルーテルの運動であつた。

元來獨逸人と云ふ者は何處にか無遠慮にして傍若無人の面影がある。而し

て其性質の反映が宗教、文學、美術には申す迄もなく、近くはモロッコ問題に對する獨乙政府の外交政策にも現はれて居る。若し夫れ斯かる大膽不敵にして猛進的の指導者がなかつたならば、恐らくは宗教改革も中途にして挫折せるやも測り知れぬのである。

穩健なる英國の宗教改革と極端なる獨逸の宗教改革

英國の宗教改革はヘンリー八世が其皇后を離縁し、更らに再婚せんとせるより其端を發したのである。勿論英國は北海の離れ島であれば、以前からも羅馬法王には中々厄介視されてゐたが、これが分離の最大誘因となつたのである。蓋しヘンリー八世は、當時下庶民より上帝王にいたる迄の冠婚葬祭を司れる羅馬法王より獨立するに非ざれば、其皇后を離縁することが出来なかつたので、其目的を貫徹せんが爲めに、獨立せる國民的教會、即ち英國々教會を建設せんことを企て、恰も英國民の賛成する所となれるを以て、遂に實行とな

つたのである。斯くの如くにして英國の教會は羅馬法主より獨立して之をを戴かざることゝなつたが、其建築、儀式、祈禱其他に於ては大に羅馬教會に近きものを採用した。

然るに獨逸の宗教改革は極端より極端に走りしものから、其教會の儀式其他は全然羅馬教會と其趣きを異にして、頗る殺風景なものである。これは同國に於ける宗教問題は同時に政治問題であるから、獨乙の新教々會は出來得る丈羅馬教會の遣り口に反對に〜と出掛けたのであるが、獨乙人は英國人のごとく中庸の道を歩むことが出來ぬためでもある。

此一事以て英國民が歐洲大陸人に比して如何に常識に富めるかを察し得るであらう。序に申すが常識とは思慮綿密にして利害關係を明察して、猪突盲進せざることをいふのである。

英人の常識を證明せる殖民政策

更らに他に例を挙げれば英國の殖民政策である。勿論英國でも失敗したことがある。北米合衆國を獨立せしめたるが如きは大失敗である。斯くて英國は之れに依りて苦き經驗を嘗めたるを以て、其後本國政府は加奈陀、濠太利亞、新西蘭土等に對する仕打は頗る寛大を致したので、殊に南亞戰爭の後、時の總理大臣カメル、パンナマンは戰爭中の感情を全然一掃して、政治上の自由をトランスヴァール人に與へて、其自治に一任したのである。現にその總理大臣は嘗てポリア軍を提げて英軍を惱したるポサ老將軍でないか。之れは英人が常識に富み、自己の利害を打算する上に於て、如何に冷靜であるかを證明せるもので、又近世政明史上に於ける一大美譚となつて居る、戰爭中の怨恨を全然忘却して、かゝる大膽なる懐柔的政策を採るは獨り英國民の能くする所であらう。

かくのごとく英國民並に英國政府は苟も一たび最善なる政策なりと確信せ

ば、之を實行するに當りては極めて思ひ切りがよい。現に埃及に對しては、回々教信仰の自由を許るし、印度に對しても亦國內にある有力なる幾多の宗教に向つて布教信仰の自由を許したのである。三億の印度人が僅かに七萬の英人官吏、軍人、實業家等に支配せられてゐる謎はかゝる事實により解釋が出来るのである。英國民自身は熱心なる基督教信者であるにも拘らず、其殖民地並に屬領民族の信教に對しては爾く寛大である。又以て英國民の常識に富めることを知り得るであらう。朝鮮人を徳化することを努めず、單に訓令と威壓によりて強者の位置を保存せんとする日本政府と人民とは實に常識を有せざるも甚しいかなと批評せざるを得ない。

モロッコ問題に對する常識

更らに近き例を擧ぐれば、目下英國議會にては、上院の問題が政論の中心點となり、自由黨並に統一黨は相對抗して頻りに戦つて居る。

偕て統一黨中の所謂絶望黨と目すべき一團は、過般首相スアキスが下院の大臣席に現はれて、將に口を開かんとするや、百方之を妨害し、爲に議場は未曾有の紛擾を呈して、世界の耳目を驚ろかしたのであつた。折り柄モロッコ問題なるものは突如として湧き起りて、世界の注目を惹いた。事の起りは獨逸がモロッコに野心を挟みて軍艦を同地に急派し、以て佛國を威嚇せんとせるに發したので、之れが爲獨佛の衝突となり、アワヤ歐洲の天地に砲煙彈雨の慘劇を演ぜんとする危機一髪となつた。

時に首相アスキスはこの問題の甚だ重要なるが故に、平生に似も遣らず、原稿を認めて、之を携へ、議會に臨みて朗讀演説を試みて一言一句を尙もせず、英國の權利は一步も狂ぐべからざる旨をほめかした。又大藏大臣ロイド、ヂョウルヂも亦此際大國民の體面の斷じて毀損すべからざることを公言した。

其折に於ける反對黨の態度は流石に立派なものであつた。今の今迄政府の

政策に對して反對しつゝありし統一黨の首領パルフォアは嚴然として起ち、英國民は國內の事件の爲めは是非黑白を論争するも、國家の浮沈に關する對外的問題に對しては舉國一致を要す、統一黨はモロッコ問題に就いては協力して現政府の方針を賛成する旨を聲明した。こう云ふ事は常識の豊富な國民に非ざれば到底能くし得ないことである。

突飛なる佛國人

若しも之れが地を換へて佛國であつたら、餘程趣きが違つたであらう。由來佛國民は極端より極端に走る國民である、之れが爲に佛國では多くの開拓者パイオニアを發生した。自動車を發明した者も佛人である。又飛行機の最も多く發達せるも同國である。佛國は世界に於ける流行の中心で、文學、哲學を始め其他の新運動は多くは同國が魁となつて居る。又佛人の極端なる國民性は同國民の言語の上にも現はれて居る。即ちその文法を觀るに冠詞は男性女性の二つ

しかないので、其中間の所謂中性と云ふものがない。従て性慾の觀念も微妙であるかもしれぬ。

こう云ふ風であるから、華麗なるルイ王朝の極端なる帝政より慘憺たる佛國革命の極端なる民政となつたのである。羅馬教會に盲從するにあらざれば、無神論者となる。中庸の道は佛人のこれを解釋するに最も困難を感ずる點であらう。

獨逸人は佛國の如く極端ではない

所が獨逸人になると、流石に文法の冠詞には男性、女性、中性の三つがある。これ獨逸人は佛人のごとく極端に偏せざることを證明してゐるのである。翻つて英國の文典を觀るに、男性女性とか若くは中性と云つた様な區別がなく、自由自在に融通のきく如になつて居る。以て英國民が如何に一片の理論のみに拘泥せないことが分る。日本語並びに支那語韓語等には文法に性の區別が

ない。この一事矢張東洋人の融通の利くことを示してゐる。

日本の芝居を演ずる際に、男が女に扮したり、女が男に扮したりして、而かも左程見悪くはないが、之れなども日本人の融通のきく國民であることを示すに足る一つの證據で、男女間の骨格の著しく相違せる西洋人間には一寸斯る模倣が六ヶ敷いのである。それでかゝる點より考察すると、日本人は殊に修養次第にて健全なる常識を有する國民となれる素質を有してゐるらしい。要するに英國人は先例とか、傳説を重んじ、事物の歴史的觀察を貴ぶ點に於て、歐洲大陸の人民とは全然其趣きを異にして居る。何んとしても常識の發達せる點に於て他は國民に比し一頭地を抜いて居る。要するに英國人は歴史家である、斷じて哲學者でない。

英人の常識の發達は人種的原因による

其處で英國人は如何にし此貴ぶべき常識を馴致し、且つ之を養成したであ

らう乎。余を以て觀れば其一つの原因は人種の関係であらうと思ふ。

世人の知れるが如く、英國人はアングロ人とサクソン人との二つの人種より成立して居るので、此兩人種は中世紀の頃獨逸の北方並にデンマルクの西北岸より、北海を越へて、英國に侵入せるものである。而して彼等は何れもチユートン人種に屬し、獨逸人種と其先祖を同うして居る。而してチユートン民族は紀元一世紀の頃スカンディネヴィアより北獨逸に移動したのである。即ちアングロサクソン人種は歐洲の寒冷なる土地より來住せる者で、氣候の關係上、空想に耽らず、頗る實際的で、濫りに想像を逞ふるが如き人種ではない。而して彼等は英國に來航してより、中世紀に於ける希臘、羅馬、猶太等の調和せる文明の影響を享けて、初めて所謂文化に浴したのである。斯くて英國人は國民としては體格強壯、精力絶倫、多く食ひ、多く飲み、且つ多く働く實際的國民となつたのである。

次は氣候の感化

第二は氣候の感化である。英國の最南端は我樺太の中央位の緯度にあたる。倫敦は確か北緯五十二度と云ふ寒冷なる圏内に横はつて居る。然るにメキシコ灣からの所謂灣流と稱する暖流の感化を享けて、氣候が著しく緩和され、爲に夏は割合に涼しく、冬は左程寒くないのである。但し冬期は霧が多くして陰氣で、何んとなく鬱陶敷い。而してこう云ふ不快なる期間は半年も續く。

氣候の感化は偉大なるもので、英國民の性情は自ら沈鬱となり、陰氣となり、實際的となつた。従て英國では感情激越の詩人とか、熱烈なる宗教家は割合に少ない。會々之を有するに至りしは、佛國人若くは南方の大陸人との雑婚に依りラテン人、若しくはケルト人の血を承けた場合が多い。こう云つた様な國民性であるから、歐洲大陸で新しいものを實驗した後に漸く之を應用すると云ふ妙な調子である。勿論幾多の除外例はある。

第三は教育の方針

第三は教育の方針である。英國の教育の方針は人格ある人を造るのを以て其目的として、學者を造る事を主たる目的とせない。例へばオックスフォード大學やケンブリッジ大學には世界で有名なる數多の學者が教鞭を執つて居るが、偕て其名譽ある教授等は其學生の發展の爲めに自己の其れを犠牲に供して居る傾きがある。即ち大學教授等は或は學生を自宅に招ぎ、或は食事を共にし、或は運動し、共に散策し、偏に其教ふる學生の人格の修養に努めて居る。所が之れが獨逸邊の學者になると、純然たる學問の人で、所謂専門の學者が多いのである。従て英國流に學生を個人的に提撕するが如きことを敢てせず、講義の時間外は多くは圖書館とか研究室に在りて自己の修養研究に努めて居るのである。

英國大學の常識試験

又大學の入學試験などを観るに、英國民の常識の發達せることの決して偶然でないことと分る。即ちオックスフォード大學で獎學金希望者の入學試験を行ふ際などには、普通の試験の外に、常識試験とも稱すべき試験を行ふ。而して此試験に首尾克く及第せば、名譽ある獎學金を得ることとなる。其處で常識試験とは如何なる試験である乎と云ふに、問題の二十位も提供して、三時間位の間から随意に七ッ位を撰びて答案を記草せしむるのであるが、偕て其問題が面白い。例へば英國民が目下最も意を注がざるべからざる問題は何か、希臘時代の民政と現時の民政とは如何なる相違あるか、文藝に對する監督に就て意見を記せよ、又は英國民は衰亡に傾きつゝありやと云つた様な現社會と密接なる關係を有する問題で、平素新聞雜誌を讀むか、演說説教を聽いて一般的修養をせぬ者には解釋し得られない種類のものだ。而かも其受験者が僅か十八九歳の少年であるから、益々面白いではないか。單に數冊の

教科書についてのみ形式的試験をするは片輪な人間を作る方法である。日本の試験法は即ちそれ。

常識を養成する學生會

又余が在學せるオックスフォード大學邊の學生は、實に善く運動する、遊ぶことも大好きであれば、熾んに旅行もする。旅行といへば英國人が春夏の期を利用して海外へ旅行することは夥しい。大陸旅行がことに多い。しかし或度まではこれは歐米人に共通の美點である。偕て勉強と云ふ一段になると打つて變つて一心不亂に勉強する。彼等は勉強することを勉學(Study)すると云はないで、之れから仕事に掛る(I am going to work)と云つて居る。世間では動もすれば英國の大學生は運動ばかりして讀書せないなどと評して居るが、畢竟皮相の觀だ。午後は遊ぶが夜分は随分と勉強する。其れはイザ勉強すると云つたら一心不亂だ。日本の學生なら二三時間位も掛る所を僅々小

半時間位で読んで仕舞ふ。

オックスフォードで有名なるユニオン討論會は學生中より議長を選び、議會その儘の會場にて時事問題を討論する所である。學生の常識はこの討論の準備と傍聴のためにも發達する。又學生は必ず數種學生會に關係して、實際的才能を養成して居る。かゝる會では會員が順番に論文をよむ後に座長が司會して討論がはじまる。

常識を養ふ卒業論文

又二週間に一度位宛受持教授から提出せられたる題目に就て二十ページ内外の短い論文を起草して、批評を請ふとなつて居る。教授は學生を一人づつ室に呼んで、喫煙などしながら打ち解けて批評をし、獎勵を與へる。大學を卒業する際には論文を起草せしめらるゝが、偕て其論文を起草するには多くの参考書を繙き、多くの實際問題を調査せなければ優等點を取れない。

となつて居るので、此數篇の卒業論文を起草せば自ら社會の種々なる事物の實況が分る様になつて居る。斯くして英國の學校では學生の常識修養に努めて居る。日本流の教場筆記さへ読めば試験が抜けられるといふのは天地霄壤の差がある。

此外學生同志勉學の餘暇互に相交際して他日活世界に起つ際の素養を整へて置く。其中に最も興味あるものは、朝餐とか、中食とか、午後の茶時とか、乃至晩飯の際に互に招き合ふことである。其れから注目すべきことは、中學校でミルの經濟書とか、モンゼンの羅馬史とか、グロートの希臘史と云つた様な多少専門的の教科書もしくは参考書に使用して居ることである。一英國青年が余に向つて、グランマースクール（中學校）は眞實なる大學教育の場所だと威張つたことを覚えてゐるが、必ずしも法螺ではない。

普通學をも試験する高等文官試験

其れから高等文官試験法が面白い。政治學、法律とか經濟と云つた様な専門の科學の外に歴史、地理、化學、物理、動植物學と云ふが如き普通學並に、羅典語、希臘語、東洋語、獨佛語などを試験さるゝのである。勿論このうち幾課目を選択させるのである。何故に普通學に爾く重きを置かるやと云ふに、畢竟、行政官たる者は廣汎なる實際的智識を有し、所謂常識の發達せる人でなければ可かぬと云ふ趣旨に外ならぬのであらう。斯かる試験に及第せる人は社會の事物に對して萬邊なき智識を有する良吏となる。英國官吏が模範的官吏として名聲世界に噴々たる所以のもの亦偶然ならずと謂つべしではないか。日本の高等文官試験法には改善すべき多くの欠點がある。

英國人は常識を養成する機会が多い

終りに、英國に於ては所在に美術館あり、博物館あり、無料圖書館ありて

常識を發達すべく絶へず國民を誘致して居る。其れから家庭に於ても大概の家には幾多の書籍を藏し、時々讀書會を開催して互の智識の練磨をして居る。又教會の如きは日本の其れと違つて宗教上の會合を催ふすに止まらず、屢々其處で讀書會や、討論會を開く。斯くて英國國民は家庭、學校、教會、社會と云ふ様な有ゆる方面から常識の發達を鼓吹せしめられて、遂に世界に於て最も卓越せる常識的國民となつたのである。而してこの常識は強健無比の體格に宿り、高遠なる基督教の理想に導かれてゐる。健康を忽にし、信仰を説かず、單に淺薄なる常識の修養を説かば、現下の邦人にとりてはあまり有難い方法でない。恐らくは百害あつて一利なきものであらう。常識を説く者また深く省察せねばならぬ。(續)

オックスフォードの三大神學者

(一) ウィリアム、サンデエー老教授

オックスフォード大學は、中世紀に發達したる他の多くの歐州諸大學のごとく、最初は主として基督教の宣傳者を養成するのが目的であつた。されば神學部は依然として各部の第一位を占め、神學部の教授といへば、學識、人格、德望に於て全大學を指導する位置にあるといひ得るのである。當大學の神學教授として英國は愚か世界に高名なる學者が二人ある。新約にサンデエー教授、舊約にドライヴァー教授即ちこれである。

サンデエー教授は千八百四十三年八月、ノッチングハムに生れた。父は有名なる牧羊家であつた。當地のペリヨルとコルプスクリステとの兩學院を経て、特待研究生となり、或は出で、牧會に従事されたこともある。千八百九十五年以來現職に就かれてゐる。肩書は貴女レディマーガレット神學教授及び基督クリヤ寺院の管理者といふいかめしいものを持つてゐらる。前學年は基督傳の材

料蒐集とその研究按排とに多忙なるためとて講義を中止せられ、ボックスといふ少壯學者が一時その代講をしてゐた。僕がはじめてこの碩學の警咳に接したのは昨年七月當地に開かれたる基督教學生青年會世界大會の折であつた。この會の代表者は或る日の午後老教授主催の園遊會に招待せられた。僕は三時半頃であつたと思ふ。クライストチャーチの内庭の暑き日影よりぬけいで、踏み馴れた石段を越えて大食堂の中に入ると、正面の教授席の下のほとりに白髪にあから顔の、人の好さそうな長身の老人が立つて、一々代表者と握手してゐられた。誰あらう、この人を久しくその偉名を耳にしたるサンデエー教授であつた。僕は名刺を出して、自分を紹介し、日本において先生の著述を愛讀せらるゝことなどを御話すると、齒が缺けて、やゝ凹んだ唇をひく／＼動かされて、そうか／＼と喜こんで聞いて下された。先生は僕が此度はじめて日本から來たのだと早合點して、壁上の偉人の肖像畫を説明され